

別添1

1 購入基準

(1) 義肢 — 殻構造義肢

名 称	型 式	使用材料・部品及び工作法	価 格	備 考
上腕義手	装 飾 用	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>ソケットは、断端との適合に注意し、装着感を良くするとともに安定性の確保に留意し、残存運動力を有効に伝えなければならないこと。</p> <p>肩吊りバンドは、使用中容易に変形しない織物を用い、腋窩部に不快感、疼痛、皮膚の損傷を生じないように留意すること。</p>	イの採型区分によるウの基本価格にエ及びオのそれぞれ使用する材料・部品の価格を合算した額とすること。	
	作 業 用	<p>ソケットの工作及び幹部の取付けに際しては、作業中の繰返し荷重、振動荷重、衝撃に耐えられるよう留意し、信頼性を高めること。</p> <p>その他は装飾用と同じ。</p>		
	能 動 式 手 部 付	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>ソケットは、断端との適合に留意し、装着感の良さ、安定性、運動の伝達性を確保するとともに、トータルコンタクト（全面接触型）を原則とすること。</p> <p>コントロールケーブル（伝導索）は、可撓性の大きい滑らかな鋼製ケーブル又はナイロン単繊維をハウジング（ケーブル鞘）とともに用い、摩擦によるケーブルの損耗と力の伝達効率の低下を防ぐこと。</p> <p>肩吊りバンドは、肘継手、手部の作動力源で、その適合はコントロールケーブルのアライメントとともに義手の機能を左右することから適合と取付けに細心の注意を払い、また、腋窩部を過度に圧迫しないこと。</p> <p>肘継手及び手部は、繰返し使用に対し機能の低下を来たさず信頼性の高いものであること。</p>		
フ 手 ッ 部 ク 付 型	<p>手部は、使用中変形を来たさず信頼性の高いものであること。</p> <p>その他はハンド型手部付と同じ。</p>			

肩義手	装飾用	<p>肩継手は、可動で外転式、屈曲－伸展式又は複合運動式とし、衣服の損耗を防ぐために突起部のないよう留意すること。</p> <p>ハーネス（胸郭帯）は、義手を肩部によく落ち着かせるようその取付位置を注意して選び、着脱に便利な構造とすること。</p> <p>その他は上腕義手装飾用と同じ。</p>	
	作業用	<p>肩継手は、必要に応じ固定できること。</p> <p>その他は上腕義手作業用と同じ。</p>	
	能動式 普通用	ハ ン ド 付 型	<p>肩継手は、装飾用と同じ。</p> <p>コントロールケーブルの取付けにはその位置に留意し、コントロールケーブルに引張力が働くとき肩継手が動かぬようにすること。</p> <p>外観を良くするため、肩幅の復元に留意すること。</p> <p>その他は上腕義手能動式と同じ。</p>
		フ ッ ク 付 型	<p>手部は、使用中変形を来たさず信頼性の高いものであること。</p> <p>その他はハンド型手部付と同じ。</p>
能動式 肩 甲 鎖 骨 切 除 用	ハ ン ド 付 型	<p>ソケットの支持性を増すため、反対側の肩部までソケット後壁部を延長する等特別の配慮が必要であるとともに、疼痛、不快感のないよう適合に留意すること。</p> <p>肩吊りバンドの工作に際しては、反対側の肩運動を有効に利用するため運動量増幅機構等を用い、コントロールケーブルのアライメントに際しては、機能の向上に特に留意すること。</p> <p>その他は能動式普通用と同じ。</p>	
	フ ッ ク 付 型	<p>手部は、使用中変形を来たさず信頼性の高いものであること。</p> <p>その他はハンド型手部付と同じ。</p>	
肘義手	装飾用	上腕義手装飾用と同じ。	
	作業用	<p>幹部は、作業種目を考慮したものとする。</p> <p>その他は上腕義手作業用と同じ。</p>	
	能動式	上腕義手能動式と同じ。	
前腕義手	装飾用	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p>	

		<p>ソケットは、断端との適合に注意し、装着感を良くするとともに残存運動力を有効に伝えるよう注意すること。</p> <p>切断面に回旋能力が残っていない場合には、手継手部で回旋できることが必要であること。</p>	
作	業	用	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>必要に応じて上腕カフ（締革）にハーネスを付けること。</p> <p>ソケット、幹部及び肘継手は、作業中の繰返し荷重、振動荷重、衝撃荷重に耐えられるよう材質及び工作法を十分吟味すること。</p>
能 動 式	長 断 端 用	ハ ン ド 型	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>ソケットは、切断端の運動を忠実に伝えるため及び装着感を良くするため、採型に細心の注意を払うこと。また、断端長の許す限り二重ソケットを原則とすること。</p>
	長 断 端 用	フ ッ ク 型	<p>・ 長断端用には、前腕の回内外運動をできるだけ良く伝えるようにソケット先端部の適合に留意すること。</p>
	中 断 端 用	ハ ン ド 型	<p>・ 中断端用には、肘の屈曲－伸展運動を忠実に伝えるとともに、135°の屈曲を妨げることのないように留意すること。</p> <p>・ 短断端用には、ソケット及び前腕部が別個に動く構造、いわゆるスプリットソケット構造とし、屈曲時に切断端の脱落を防止するため、ソケットは肘頭まで包含する構造とすること。</p>
	中 断 端 用	フ ッ ク 型	
	短 断 端 用	ハ ン ド 型	<p>コントロールケーブルは、可撓性の大きい平滑な鋼製ケーブル又はナイロン単繊維をハウジングとともに用い、ケーブルの摩擦を少なくするとともに、摩耗によるケーブルの損傷を極力少なくすること。</p>
	短 断 端 用	フ ッ ク 型	<p>肩吊りバンドの適合及びアライメントは、コントロールケーブルのアライメントとともに能動義手の機能を左右することから、適合と取付けには特に留意し、腋輪は、腋窩部の疼痛、不快感、皮膚の損傷を生じないよう適切な保護用被覆を行う</p>

			こと。	
手義手	装飾用		前腕義手装飾用と同じ	
	作業用		前腕義手作業用と同じ。	
	能動式		前腕義手能動式長断端用と同じ。	
手部義手	装飾用		アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 手袋型とすること。	
	作業用		アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 手部又は前腕部に固定できるようにすること。 手部には、作業に必要な装置を付けること。	
手指義手	装飾用		アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 キャップ式又は手袋型のいずれかによること。	
	作業用		アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 指部は、作業に適するよう形成すること。	
股義足	常用	普通	アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 ソケットは、装着感を良くするとともに完全に適合し、かつ、腸骨稜まで収納することにより、義足を懸垂するようにすること。革ソケットの場合は、ソケットの内側を牛クロム革で内張りすること。 回転台付の場合、皮革絞りのソケットは、変形防止のため帯鋼で補強枠を組み、取り付けること。 大腿部及び下腿部は、木製内部の水分を一定に保つための配慮を必要とすること。 アルミニウム合金の場合には、防蝕処理を施すこと。 運動部分の継手については、防音と減摩に十分留意すること。	大腿短断端を含む。
		カナ	アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作す	

		<p>デザイン式</p> <p>ること。 ソケットは、義足の懸垂、体重支持及び運動性を確保すること。 歩容に重要な影響を及ぼすので、アライメントは特に精密に決定すること。 カップリング（軸位調整装置）を用いて必ず試歩行を行うこと。 両脚の歩長をそろえるため、股屈曲角制限装置を取り付けること。</p>	
	作業用	<p>耐水性及び防蝕性に留意すること。 その他は足部を除き、常用普通と同じ。</p>	
大腿義足	常用	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 ソケットは、装着感、体重支持及び運動性を良くするため、適合に留意し四辺型ソケットとすること。 ソフトインサートは、皮革、軟性発泡樹脂等のいずれでもよいこと。ただし、状況に応じてソフトインサートを省いてもよいこと。 アルミニウム合金を使用する場合は、防蝕処理を施すこと。</p>	
	吸着式常用	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 ソケットは、切断端の解剖、生理学的特性に適合した最適形状と軽度の圧迫によって、体重支持、懸垂力を生じるので、適合には特に留意し、装着感、切断端の変色、肉の盛り上がり、坐骨結節の位置等を、十分吟味すること。 義足の組立てに際しては、試歩行により装着感、安定性及び運動性を確保するための歩行分析を行い、ソケット適合の場合の修正、アライメントの調整を行い、正常歩行に近づけるよう努めること。 膝継手の運動を制御するためのブレーキ装置は、その機能が確実に信頼性のあるものを用い、使用中の緩み、かじりつきのないものを用いること。 切断端の状況に応じて、懸垂補助、歩容の改善のため、シレジアバンド（懸垂帯）を用いてもよ</p>	<p>差込吸着式を含む。</p>

			<p>いこと。</p> <p>SACH足部は、体重、健肢の足の寸法、常用する履物、装着者の活動性を考慮して、適切な寸法、性状で、かつ、信頼性の高いものを使用すること。</p> <p>切断端の状況の許す限り、トータルコンタクトを原則とし、やむを得ない場合には切断端末部に空気室を設けてもよいこと。</p>	
	作	業	用	<p>耐水性及び防蝕性を与えるよう留意するとともに、十分な強度をもたせること。</p> <p>その他は常用と同じ。</p>
膝義足	常	用	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>ソケットの適合には綿密な注意を払い、装着感を良くするとともに運動性を確保すること。</p> <p>ソフトインサートは、必ずしも必要としないが、断端末支持には断端末受を入れること。</p> <p>下腿部に強化プラスチックを用いる場合は、変形を防止するよう十分留意すること。</p> <p>膝継手が遊動式の場合には、膝関節の運動をコントロールする構造又は装置を必要とするほか、防音、運動部の減摩に留意すること。</p> <p>膝継手は、衣服の損耗を防止するため皮革で包むこと。</p>	
	作	業	用	<p>耐水性及び防蝕性に留意すること。</p> <p>その他は足部を除き、常用に同じ。</p>
下腿義足	常	用	普 通 (軽 便 式 を 含 む)	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>ソケットは、体重支持と義足の運動性のため、採型に特に留意すること。</p> <p>膝継手軸の取付位置は、椅座時の快さ、歩行時のピストン運動及び遊脚時の義足の動きに重大な影響を与えるので、入念にその位置を決定すること。</p> <p>アルミニウム合金を使用する場合は、防蝕処理を施すこと。</p> <p>大腿もも締め筋金は、歩容、義足の懸垂及び安定性に影響があるので、筋金のくせとり、長さの決定並びにもも締革の製作及び取付けには十分</p>

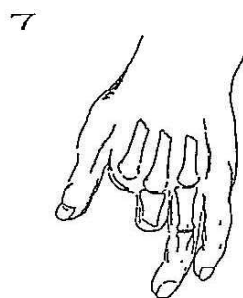
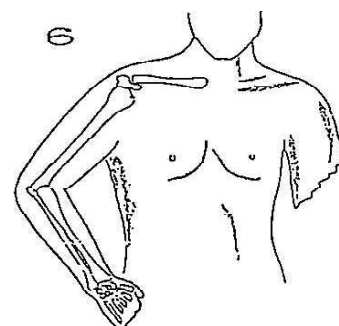
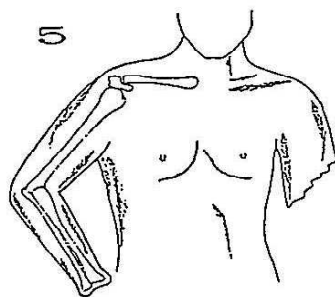
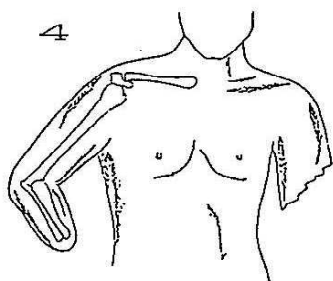
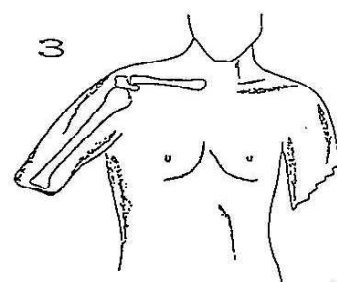
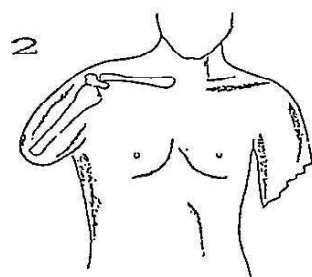
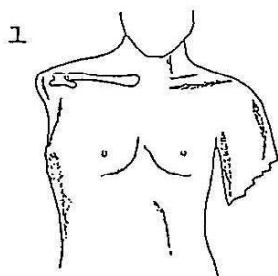
		な配慮が必要であること。	
	P T B 式	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>ソケットは、体重支持、安定性及び運動性を良くするため、適合に留意し、カップリングを用いて試歩行を行った上で組み立てること。</p> <p>精密な適合によつてソケットのみを用い、ソフトインサートを省いてもよいこと。その場合、切断末端部はクッション材で支持すること。</p> <p>外装は、強化プラスチック仕上げとすること。</p> <p>膝カフを皮革で作る場合には、使用中に懸垂バンドが伸びるのを防止するため、表革と裏打との間に伸びのないベルト等をはさむこと。</p> <p>膝継手金具及び大腿もも締革は、用いないことを原則とするが、切断端の状況によりやむを得ない場合は、膝継手金具又は大腿もも締革を用いてもよいこと。</p> <p>適合判定は、試歩行の段階及び義足完成時に行うこと。</p>	サイム切断を含む。
	P T S 式	<p>ソケット上部の適合には、細心の注意を払い、特に膝関節付近の解剖学的構造によく合わせることによつて義足を懸垂させること。</p> <p>採型後ギプスソケットによつて適合をよく吟味、修正すること。</p> <p>その他はP T B式と同じ。</p>	
	K B M 式	<p>義足の懸垂は、内顆部の解剖学的構造によく適合したくさび又はF A J A Lの方法によつて行われ、膝蓋骨部は露出するため、特に採型時及び仮合わせ時の適合は、綿密に吟味すること。</p> <p>膝蓋靭帯より上部のソケットは、左右方向に変形しやすいものとなる傾向があるので、ソケット形成に際しては、補強材の種類、量、樹脂の強度を十分吟味して、強度、剛性を減少させぬよう留意すること。</p> <p>その他はP T S式と同じ。</p>	
	作 業 用	<p>耐水性及び防蝕性に留意すること。</p> <p>その他は常用普通と同じ。</p>	
果 義 足		アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作す	ピロゴフ切断を含む。

		<p>ること。</p> <p>義足の懸垂は、切断端の形状を利用し、ソケットを切断端に固定することによって行われるので、適合に十分留意すること。</p> <p>足部は、遊動足部又はSACH足部の構造特性を利用したものとすること。</p> <p>特にソケットと足部との結合部の強度を保つように留意すること。</p>	
足根中足 義足	鋼板入り	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>切断端の骨突出部を損傷しないようソケットの適合とソケット構造に特に留意すること。</p> <p>足底は、鋼板、ゴムベルト等を挿入して弾性と強度をもたせること。</p> <p>足の形態の復元のため、スポンジで形成し、足底は牛なめし革を張り付けること。</p>	
	足袋型	<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>足底は、ゴムベルトを入れ足部の変形を防止し、かつ、耐久性を増加するようにすること。</p> <p>断端から踵までを包み足袋型とすること。</p> <p>締付けは、前後いずれでもよいこと。</p> <p>足部は、牛なめし革を張り付けること。</p>	
足指義足		<p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p> <p>踵部にゴムバンドで引き掛け、又は足袋型にし、足部を包んで装着できるようにすること。</p>	
<p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 義手の作業用に付ける手先用具は、3個を範囲として必要な数だけオの完成用部品を加えること。 2 手先用具の取付部は、ピン固定法又は溝固定法により、太さは9mmとすること。 3 二重ソケットは、断端の表面を均等に受けるようにするものとし、支持部に取り付け、変形を防止するためにプラスチック等硬質の材料を使用すること。なお、皮膚接触面には、軟性の材料を付加することがあること。 4 障害者の殻構造義肢の耐用年数は、カの耐用年数によるものとすること。 5 障害児の殻構造義肢の使用年数は、キの使用年数によるものとすること。 			

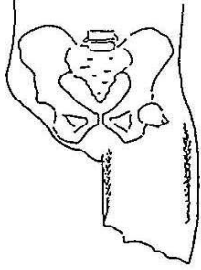
ア 基本工法

工 程	作 業 の 内 容
(ア) 断端の観察	断端の表面の状況、関節の運動機能（屈伸、内転、外転等）の状況並びに肢位の観察及び特徴の把握
(イ) 採寸及び投影図の作成	情報カードの記録、製作に必要な寸法及び角度の測定並びに記録並びに投影図の作成
(ウ) 採 型	ギプス包帯法による陰性モデルの採型及び順型、陽性モデルの注型及び取出し並びに陽性モデルの修正
(エ) 適合のチェック	チェックソケットの製作、チェックソケットによる適合のチェック及び修正並びに継手の中心位置の設定
(オ) 陽性モデルの製作	チェックソケットへのギプスの注型、陽性モデルの修正、表面の仕上げ及び乾燥
(カ) ソケット製作	ストックネットの被覆、強化材の付加、PVAスリーブの被覆、樹脂の注型、取外し及びソケットトリミング
(キ) 支持部材の外形の形成及び要素の結合	<p>義手：パラフィン、プラスチックフォームギプス等による支持部材外形の形成及び要素の結合</p> <p>義足：股継手、膝継手、足部等の機能部品の支持部材による結合及び足部の調整</p>
(ク) 組立て	<p>義手：継手等各部の組合せ及び結合並びにハーネスの取付け</p> <p>義足：カップリングの取付け、ベンチアライメントの設定、各部の組合せ及び結合、懸垂装置の取付け並びに角度調整</p>
(ケ) 仮合わせ	<p>義手：ソケットトリミングの修正、ハーネスの調整及び機能の点検、義手操作の基本的指導並びに適合の修正</p> <p>義足：アライメントの修正、適合の点検及び修正、各部の機能の点検並びに起立及び歩行の基本動作の指導</p>
(コ) 外装及び仕上げ	<p>義手：外形の研削、ストックネットの被覆及びラミネーション</p> <p>義足：カップリングの取外し、外形の形成、内部余肉の除去、外装並びにソケットの適合及び機能の最終点検</p>
(サ) 適合検査	適合及びアライメントの点検並びに操作の指導

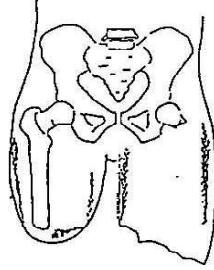
イ 採型区分
A 縫手



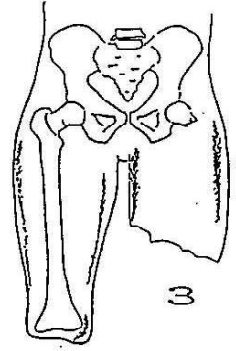
B 義 足



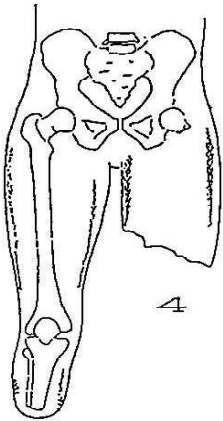
1



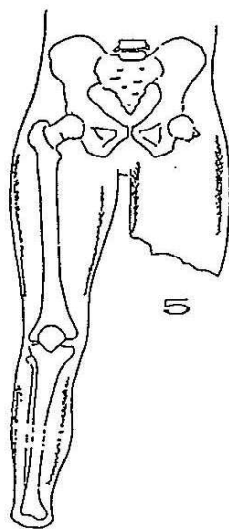
2



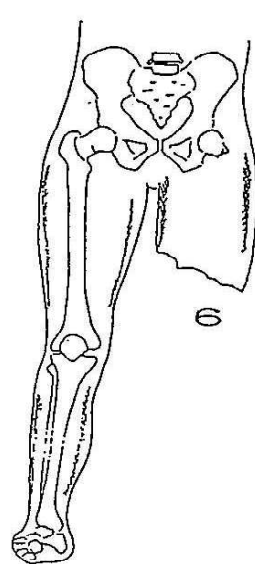
3



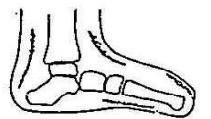
4



5



6



7

ウ 基本価格

名 称	採型区分	型 式	価 格 円	備 考
義 手 用	A-1	装 飾 用	<u>33,600</u>	肩甲胸郭間切断用は、 <u>13,300</u> 円増しとすること。
		作 業 用	<u>33,600</u>	
		能 動 式	<u>44,700</u>	
	A-2	装 飾 用	<u>35,700</u>	吸着式は、25,900円増しとすること。
		能 動 式	<u>41,900</u>	
	A-3	装 飾 用	<u>32,600</u>	吸着式は、25,900円増しとすること。
		能 動 式	<u>37,700</u>	
A-4	装 飾 用	<u>31,600</u>	顎上支持式は、12,900円増しとすること。 スプリット式は、19,400円増しとすること。	
	能 動 式	<u>33,200</u>		
A-5	装 飾 用	28,600		
	能 動 式	32,600		
A-6	装 飾 用	11,000		
	能 動 式	16,500		
A-7	装 飾 用	8,750		
	作 業 用	12,800		
義 足 用	B-1	受 皿 式	<u>86,600</u>	片側骨盤切断用は、17,600円増しとすること。
		カナディアン式	<u>86,600</u>	
	B-2	差 込 式	<u>54,300</u>	短断端切断用キップシャフトは、 <u>50,000</u> 円増しとすること。 IRCソケットは、 <u>54,500</u> 円増しとすること。
		ライナー式	<u>98,300</u>	
		吸 着 式	<u>141,300</u>	
	B-3	差 込 式	<u>52,600</u>	大腿支柱付きは、 <u>23,900</u> 円増しとすること。
		ライナー式	<u>73,000</u>	
吸 着 式		<u>116,000</u>		
B-4	差 込 式	<u>40,600</u>	大腿支柱付きは、 <u>23,900</u> 円増しとすること。	
	P T B 式	63,000		
	P T S 式	78,100		
	K B M 式	80,700		
B-5	差 込 式	<u>43,300</u>		
	有 窓 式	<u>65,300</u>		
B-6		<u>22,700</u>		
B-7		17,400		

(注)

- 1 顆上支持式は、ミュンスタータイプ及びノースウェスタンタイプとすること。
- 2 ソフトインサートのシリコン又は、完成用部品のライナーを使用して仮合わせ専用のチェックソケットを用いる場合に限り、44,500円加算できること。
- 3 IRCソケットを除く吸着式、顆上支持式、スプリット式のチェックソケットの材料に透明プラスチックを使用した場合は、7,800円加算できること。その他については、製作工程にチェックソケットを用いた場合であって、透明プラスチックを材料とした場合に限り、同様に加算できること。なお、上記2との併用加算はできないこと。

エ 製作要素価格

(ア) ソケット

名 称	採型区分	使 用 材 料	価 格 円	備 考
義 手 用	A-1	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	10,800 <u>8,850</u> <u>19,900</u> <u>5,050</u>	
	A-2	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>9,600</u> 11,600 13,600 6,550	
	A-3	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>9,600</u> 12,600 13,600 <u>4,700</u>	
	A-4	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>8,450</u> 11,500 13,300 4,600	
	A-5	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	10,100 <u>8,750</u> <u>12,700</u> 6,600	
	A-6	セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	8,250 8,450 <u>10,300</u> 6,400	
	A-7	皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	3,800 3,850 3,300	

義 足 用	B-1	アルミニウム、セルロイド 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	21,400 <u>35,300</u> <u>14,800</u>	
	B-2	木 製 アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>48,200</u> 14,200 <u>18,800</u> <u>27,300</u> <u>16,100</u>	エアクションソケットは、 <u>15,100</u> 円増しとすること。 二重式ソケットは、内ソケットの使用材料の価格を加算することができること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>16,900</u> 円増しとすること。
	B-3	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	14,500 <u>24,200</u> <u>40,500</u> <u>18,400</u>	エアクションソケットは、 <u>15,100</u> 円増しとすること。 二重式ソケットは、内ソケットの使用材料の価格を加算することができること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>16,600</u> 円増しとすること。
	B-4	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	11,400 <u>17,000</u> <u>24,700</u> <u>12,900</u>	エアクションソケットは、 <u>13,800</u> 円増しとすること。 二重式ソケットは、内ソケットの使用材料の価格を加算することができること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>6,550</u> 円増しとすること。
	B-5	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>11,900</u> <u>17,300</u> <u>23,500</u> <u>10,200</u>	エアクションソケットは、 <u>12,700</u> 円増しとすること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>9,150</u> 円増しとすること。
	B-6	セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	11,700 10,100 <u>21,700</u> <u>10,000</u>	エアクションソケットは、 <u>11,900</u> 円増しとすること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>5,600</u> 円増しとすること。
	B-7	皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	8,850 <u>19,700</u> <u>9,550</u>	

(イ) ソフトインサート

名 称	採型区分	使用材料	価 格 円	備 考
義手用	A-1	皮 革	<u>4,400</u>	
		軟性発泡樹脂	4,450	
		皮革・軟性発泡樹脂	<u>7,500</u>	
	A-2	皮 革	3,850	
		軟性発泡樹脂	4,300	
A-3	皮革・軟性発泡樹脂	7,200		
義足用	B-1	皮 革	<u>6,550</u>	
		軟性発泡樹脂	<u>4,950</u>	
		皮革・軟性発泡樹脂	<u>9,850</u>	
	B-2	皮 革	<u>5,000</u>	
		軟性発泡樹脂	<u>4,600</u>	
皮革・軟性発泡樹脂		<u>6,500</u>		
皮革・フェルト		<u>9,050</u>		
B-3	シリコーン	<u>41,100</u>		
B-3	皮 革	<u>5,650</u>		
	軟性発泡樹脂	<u>4,750</u>		
	皮革・軟性発泡樹脂	<u>9,000</u>		
	皮革・フェルト	<u>9,950</u>		

	シリコーン	<u>44,200</u>	
B-4	皮革	4,100	
	軟性発泡樹脂	<u>4,400</u>	
	皮革・軟性発泡樹脂	<u>6,700</u>	
	皮革・フェルト	<u>7,750</u>	
	シリコーン	<u>35,300</u>	
B-5	皮革	<u>4,400</u>	
	軟性発泡樹脂	<u>7,100</u>	
	皮革・軟性発泡樹脂	<u>7,650</u>	
B-6	皮革	<u>2,800</u>	
	軟性発泡樹脂	3,150	
	皮革・軟性発泡樹脂	<u>5,600</u>	
B-7	皮革	<u>2,150</u>	
	軟性発泡樹脂	2,500	
	皮革・軟性発泡樹脂	<u>4,300</u>	

(注)

- 1 軟性発泡樹脂とは、PEライト及びスポンジであること。
- 2 ソフトインサートは、骨突起部等に部分的に当てるのではなく、断端の全体を覆うものであること。

(ウ) 支持部

名 称	型 式	部 位	使 用 材 料	価 格 円	備 考
義 手 用	装 飾 用 能 動 式	肩 部		8,350	
		上 腕 部	アルミニウム、セルロイド	7,450	
			熱硬化性樹脂	23,200	
	前 腕 部	アルミニウム、セルロイド	9,500		
		熱硬化性樹脂	<u>19,100</u>		
	作 業 用	上 腕 部		7,450	肩義手用及び上腕義手用に幹部を使用する場合に限ること。
前 腕 部			9,500	前腕義手用に幹部を使用する場合に限ること。	
義 足 用	常 用	股 部		10,200	
		大 腿 部	木 製	30,300	
			アルミニウム、セルロイド	30,600	
			熱硬化性樹脂	<u>31,700</u>	
		下 腿 部	木 製	<u>26,500</u>	
	アルミニウム、セルロイド		27,700		
		熱硬化性樹脂	<u>31,200</u>		
	作 業 用	大 腿 部		58,300	股義足用及び大腿義足用に鉄脚を使用する場合に限ること。
下 腿 部			27,700	下腿義足用に鉄脚を使用する場合に限ること。	

(注)

- 1 義手用及び義足用の支持部そのものが外装となる場合は、支持部に外装の価格を加算すること。
- 2 果義足用、足根中足義足用及び足指義足用の場合に限り、足部を加えることができること。
- 3 肩義手で、ソケットに続く部分の形状を健側のように整えるため又は上腕部との接続のために修正を行う場合は、8,800円増しとすること。
- 4 股義足で、ソケットに続く部分の形状を健側のように整えるため又は股継手の土台を積層するために大幅な

修正を行う場合は、10,300円増しとすること。

5 熱可塑性樹脂については、セルロイドに準ずること。

(エ) 義手用ハーネス及び義足懸垂用部品

区 分	名 称	使 用 部 品	価 格 円	備 考
義 手 用 ハ ー ネ ス	肩義手用	胸郭用ベルトハーネス一式	<u>20,900</u>	
		肩たすき一式	<u>10,500</u>	
	上腕義手用	胸郭用ベルトハーネス一式	<u>20,700</u>	
		肩たすき一式	10,500	
		8字ハーネス一式	<u>9,550</u>	
	前腕義手用	胸郭用ベルトハーネス一式	<u>17,700</u>	
8字ハーネス一式		7,700		
9字ハーネス一式		4,950		
たわみ継手（一組）		<u>2,400</u>		
前方支持バンド		<u>2,400</u>		
上腕カフ（三頭筋パッド）	5,000			
義 足 懸 垂 用 部 品	股義足用	懸垂帯一式	<u>14,900</u>	価格は、1本当たりのものであること。
	大腿義足用	シレジアバンド一式	<u>7,250</u>	
		肩吊带	<u>6,300</u>	
		腰バンド	8,600	
		横吊带	1,600	
		義足用股吊带	<u>2,100</u>	
	下腿義足用	腰バンド	8,600	
		横吊带	<u>2,250</u>	
		大腿もも締め一式	<u>11,300</u>	
		P T B 膝カフ一式	<u>8,600</u>	

(注)

- 1 肘義手用は、上腕義手用に準ずること。
- 2 手義手用及び手部義手用は、前腕義手用に準ずること。
- 3 膝義足用は、大腿義足用に準ずること。
- 4 サイム義足用は、下腿義足用に準ずること。
- 5 下腿義足常用軽便式の懸垂用膝カフは、P T B 膝カフに準ずること。

(オ) 外装

名 称	外装部位	使用材料等	価 格 円	備 考
義 手 用	肩 部	皮 革	<u>5,500</u>	
		プラスチック	15,000	
		塗 装	1,950	
上 腕 部	皮 革	皮 革	<u>5,600</u>	
		プラスチック	14,500	
		塗 装	1,700	
前 腕 部	皮 革	皮 革	<u>5,500</u>	
		プラスチック	11,400	
		塗 装	<u>1,850</u>	
義 足 用	股 部	皮 革	<u>10,100</u>	
		プラスチック	<u>16,600</u>	
		塗 装	<u>3,250</u>	
	大 腿 部	皮 革	皮 革	<u>8,250</u>
プラスチック			<u>14,800</u>	
塗 装			<u>2,900</u>	
下 腿 部	皮 革	皮 革	<u>7,500</u>	
		プラスチック	12,800	
足 部	表 裏	塗 装	2,550	
		表 革	5,000	
		裏 革	3,450	
		塗 装	3,300	
		リアルソックス	1,050	リアルソックスは、完成用部品を加えることができること。

オ 完成用部品

義手用部品及び義足用部品の名称、使用部品、価格等については、別に定めるところによること。

カ 耐用年数

(ア) 義肢本体

区 分	名 称	型 式	耐用年数 _年	備 考	
義 手	上 腕 義 手	装 飾 用	4	耐用年数以内の破損及び故障に際しては、原則として修理又は調整を行うこと。	
		作 業 用	3		
		能 動 式	3		
	肩 義 手	装 飾 用	4		
		作 業 用	3		
		能 動 式	3		
	肘 義 手	前 腕 義 手			3
					3
	手 義 手	手 部 義 手	装 飾 用		1
			作 業 用		2
手 指 義 手		装 飾 用	1		
		作 業 用	2		
義 足	股 義 足	大 腿 義 足	常 用	4	
			吸 着 式	3	
			作 業 用	5	
	膝 義 足		常 用	3	
			作 業 用	2	
	下 腿 義 足	果 義 足		2	
				2	
	足 根 中 足 義 足	足 指 義 足	鋼板入り	2	
			足袋型	1	
				1	

(イ) 完成用部品

材 料 ・ 部 品 名	耐用年数 _年	備 考
継 手 類	3	耐用年数以内の故障に際しては、原則として小部品の取替えにより修理又は調整を行うこと。
リストメタル	3	
手 部	1	
手 袋	1	
足 部	1	
その他の小部品 (消耗品)	1	

キ 使用年数

年 齢	使用年数	備	考
0 歳	4 月		使用年数は、年齢による児童の特殊性を考慮して定めたものであるが、使用年数以内の故障に際し
1～2歳	6 月		
3～5歳	10 月		
6～14歳	1 年		
15～17歳	1年6月	<p>次については、左記使用年数にかかわらず1年とすること。</p> <p>1 義肢本体のうち「手部義手」の「装飾用」、「手指義手」の「装飾用」、「足根中足義足」の「足袋型」及び「足指義足」</p> <p>2 完成用部品のうち「手部（手袋以外の手先具）」、「手袋」及び「足部」</p> <p>3 完成用部品を構成する「小部品（消耗品）」</p>	ては、原則として小部品の取替えにより修理又は調整を行うこと。

備 考

- 1 本表の価格は、医師の採型技術料を含まないものであること。
- 2 耐用年数は、通常の装用状態において、当該材料・部品が修理不能となるまでの予想年数を示したものであること。

(2) 義肢 — 骨格構造義肢

名 称	型 式	使用材料・部品及び工作法	価 格	備 考
肩 義 手	装 飾 用	アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 外形カバーは、容易に着脱できるように製作すること。	イの採型区分によるウの基本価格にエ及びオのそれぞれ使用する材料・部品の価格を合算した額とすること。	
上腕義手	装 飾 用	肩義手と同じ。		
前腕義手	装 飾 用	肩義手と同じ。		
股 義 足	カナディアン式	アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 外形カバーは、断端の状態、職業等を考慮して、一体的又は膝上下分離式及び軟性又は硬性の選択を行い、容易に着脱できるように製作すること。		片側骨盤切除用を含むものであること。
大腿義足	差 込 式	股義足と同じ。		キップシャフト（短断端切断用）を含むものであること。
	吸 着 式	股義足と同じ。		吸着式には、差込吸着式を含むものであること。
膝 義 足	常 用	アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。 外形カバーは、断端の状態、職業等を考慮して、軟性又は硬性の選択を行い、容易に着脱できるように製作すること。		
下腿義足	P T B 式	膝義足と同じ。		
	P T S 式	膝義足と同じ。		
	K B M 式	膝義足と同じ。		
	長 断 端 用	膝義足と同じ。	サイム義足を含むものであること。ただし、この場合外形カバーは加算できないこと。	

(注)

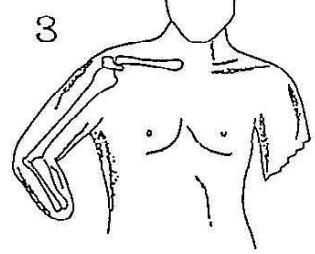
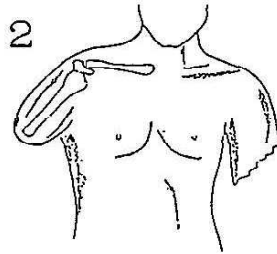
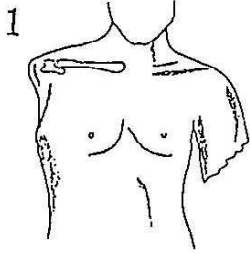
- 1 二重ソケットは、断端の表面を均等に受けるようにするものとし、支持部に取り付け、変形を防止するためにプラスチック等硬質の材料を使用すること。なお、皮膚接触面には、軟性の材料を付加することがあること。
- 2 障害者の骨格構造義肢の材料・部品の耐用年数は、カの耐用年数によるものとする。
- 3 障害児の骨格構造義肢の材料・部品の使用年数は、キの使用年数によるものとする。
- 4 肩義手、上腕義手及び前腕義手については、6歳以上を対象とするものに限ること。

ア 基本工法

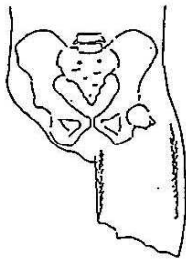
工 程	作 業 の 内 容
(ア) 断端の観察	断端の表面の状況、関節の運動機能（屈伸、内転、外転等）の状況並びに肢位の観察及び特徴の把握
(イ) 採寸及び投影図の作成	情報カードの記録、製作に必要な寸法及び角度の測定並びに記録並びに投影図の作成
(ウ) 採型	ギプス包帯法による陰性モデルの採型及び順型、陽性モデルの注型及び取出し並びに陽性モデルの修正
(エ) 適合のチェック	チェックソケットの製作、チェックソケットによる適合のチェック及び修正並びに継手の中心位置の設定
(オ) 陽性モデルの製作	チェックソケットへのギプスの注型、陽性モデルの修正、表面の仕上げ及び乾燥
(カ) ソケットの製作	ストックネットの被覆、強化材の付加、PVAスリーブの被覆、樹脂の注型、取外し及びソケットトリミング
(キ) 支持部材の外形の形成及び要素の結合	<p>義手：パラフィン、プラスチックフォームギプス等による支持部材外形の形成及び要素の結合</p> <p>義足：股継手、膝継手、足部等の機能部品の支持部材による結合及び足部の調整</p>
(ク) 組立て	<p>義手：継手等各部の組合せ及び結合並びにハーネスの取付け</p> <p>義足：カップリングの取付け、ベンチアライメントの設定、各部の組合せ及び結合、懸垂装置の取付け並びに角度調整</p>
(ケ) 仮合わせ	<p>義手：ソケットトリミングの修正、ハーネスの調整及び機能の点検、義手操作の基本の指導並びに適合の修正</p> <p>義足：アライメントの修正、適合の点検及び修正、各部の機能の点検並びに起立及び歩行の基本動作の指導</p>
(コ) 外装及び仕上げ	<p>義手：フォームラバーの穴掘り及び外形の研削、ストックネットの被覆</p> <p>義足：カップリングの取外し、外形の形成、内部余肉の除去、外装並びにソケットの適合及び機能の最終点検</p>
(サ) 適合検査	適合及びアライメントの点検並びに操作の指導

イ 採型区分

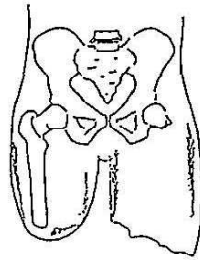
A 義手



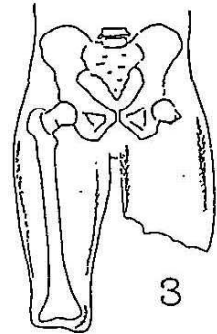
B 義足



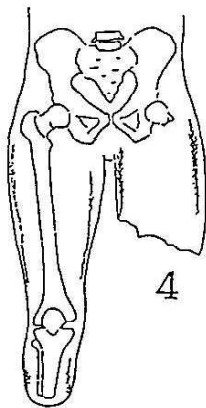
1



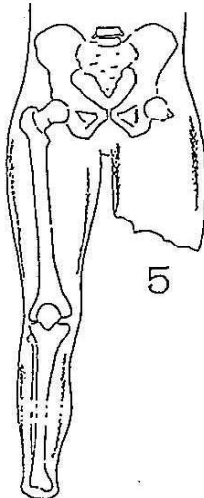
2



3



4



5

ウ 基本価格

名 称	採型区分	型 式	価 格 円	備 考
義 手 用	A-1	装 飾 用	<u>33,600</u>	肩甲胸郭間切断用は、 <u>13,300</u> 円増しとすること。
	A-2	装 飾 用	<u>35,700</u>	吸着式は、25,900円増しとすること。
	A-3	装 飾 用	31,600	顛上支持式は、12,900円増しとすること。 スプリット式は、19,400円増しとすること。
義 足 用	B-1	カナディアン式	<u>86,600</u>	片側骨盤切断用は、17,600円増しとすること。
	B-2	差 込 式	<u>54,300</u>	短断端切断用キップシャフトは、 <u>50,300</u> 円増しとすること。 IRCソケットは、 <u>54,500</u> 円増しとすること。
		ラ イ ナ ー 式	<u>98,300</u>	
		吸 着 式	<u>141,300</u>	
	B-3	差 込 式	<u>52,600</u>	
		ラ イ ナ ー 式	<u>73,000</u>	
		吸 着 式	<u>116,000</u>	
	B-4	差 込 式	<u>40,600</u>	大腿支柱付きは、 <u>23,900</u> 円増しとすること。
P T B 式		63,000		
P T S 式		78,100		
K B M 式		80,700		
B-5	差 込 式	<u>43,300</u>		
	有 窓 式	<u>65,300</u>		

(注)

- 1 顛上支持式は、ミュンスタータイプ及びノースウェスタンタイプとすること。
- 2 ソフトインサートのシリコン又は、完成用部品のライナーを使用して仮合わせ専用のチェックソケットを用いる場合に限り、44,500円加算できること。
- 3 IRCソケットを除く吸着式、顛上支持式、スプリット式のチェックソケットの材料に透明プラスチックを使用した場合は、7,800円加算できること。その他については、製作工程にチェックソケットを用いた場合であって、透明プラスチックを材料とした場合に限り、同様に加算できること。なお、上記2との併用加算はできないこと。

エ 製作要素価格
(ア) ソケット

名 称	採型区分	使 用 材 料	価 格 円	備 考
義 手 用	A-1	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	10,800 <u>8,850</u> <u>19,900</u> <u>5,050</u>	
	A-2	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>9,600</u> 11,600 13,600 6,550	
	A-3	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>8,450</u> 11,500 13,300 4,600	
義 足 用	B-1	アルミニウム、セルロイド 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	21,400 <u>35,300</u> <u>14,800</u>	
	B-2	木 製 アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>48,200</u> 14,200 <u>18,800</u> <u>27,300</u> <u>16,100</u>	エアクションソケットは、 <u>15,100</u> 円増しとすること。 二重式ソケットは、内ソケットの使用材料の価格を加算することができること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>16,900</u> 円増しとすること。
	B-3	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	14,500 <u>24,200</u> <u>40,500</u> <u>18,400</u>	エアクションソケットは、 <u>15,100</u> 円増しとすること。 二重式ソケットは、内ソケットの使用材料の価格を加算することができること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>16,600</u> 円増しとすること。
	B-4	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	11,400 <u>17,000</u> <u>24,700</u> <u>12,900</u>	エアクションソケットは、 <u>13,800</u> 円増しとすること。 二重式ソケットは、内ソケットの使用材料の価格を加算することができること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>6,550</u> 円増しとすること。
	B-5	アルミニウム、セルロイド 皮 革 熱硬化性樹脂 熱可塑性樹脂	<u>11,900</u> <u>17,300</u> <u>23,500</u> <u>10,200</u>	エアクションソケットは、 <u>12,700</u> 円増しとすること。 主たる積層材にカーボンストッキネットを用い樹脂注型を行う場合は、 <u>9,150</u> 円増しとすること。

(イ) ソフトインサート

名 称	採型区分	使 用 材 料	価 格 円	備 考
義 手 用	A-1	皮 革	<u>4,400</u>	
		軟 性 発 泡 樹 脂	4,450	
		皮革・軟性発泡樹脂	<u>7,500</u>	
A-2	皮 革	3,850		
	軟 性 発 泡 樹 脂	4,300		
	皮革・軟性発泡樹脂	7,200		
A-3	皮 革	<u>3,750</u>		
	軟 性 発 泡 樹 脂	4,300		
	皮革・軟性発泡樹脂	6,950		
義 足 用	B-1	皮 革	<u>6,550</u>	
		軟 性 発 泡 樹 脂	<u>4,950</u>	
		皮革・軟性発泡樹脂	<u>9,850</u>	
	B-2	皮 革	<u>5,000</u>	
		軟 性 発 泡 樹 脂	<u>4,600</u>	
		皮革・軟性発泡樹脂	<u>6,500</u>	
		皮革・フェルト	<u>9,050</u>	
		シリコーン	<u>41,100</u>	
	B-3	皮 革	<u>5,650</u>	
		軟 性 発 泡 樹 脂	<u>4,750</u>	
		皮革・軟性発泡樹脂	<u>9,000</u>	
		皮革・フェルト	<u>9,950</u>	
		シリコーン	<u>44,200</u>	
	B-4	皮 革	4,100	
		軟 性 発 泡 樹 脂	<u>4,400</u>	
皮革・軟性発泡樹脂		<u>6,700</u>		
皮革・フェルト		<u>7,750</u>		
シリコーン		<u>35,500</u>		
B-5	皮 革	<u>4,400</u>		
	軟 性 発 泡 樹 脂	<u>7,050</u>		
	皮革・軟性発泡樹脂	<u>7,600</u>		
(注)				
1 軟性発泡樹脂とは、PEライト及びスポンジであること。				
2 ソフトインサートは、骨突起部等に部分的に当てるのではなく、断端の全体を覆うものであること。				

(ウ) 支持部

名 称	価 格 円	備 考
肩 義 手 用	13,400	
上 腕 義 手 用	10,700	
前 腕 義 手 用	10,600	
股 義 足 用	16,100	
大 腿 義 足 用	16,000	
下 腿 義 足 用	10,600	

(注)

- 1 肩義手で、ソケットに続く部分の形状を健側のように整えるため又は上腕部との接続のために修正を行う場合は、8,750円増しとすること。
- 2 股義足で、ソケットに続く部分の形状を健側のように整えるため又は股継手の土台を積層するために大幅な修正を行う場合は、10,300円増しとすること。

(エ) 義手用ハーネス及び義足懸垂用部品

区分	名称	使用部品	価格 円	備考
義 手 用 ハ ー ネ ス	肩義手用	胸郭用ベルトハーネス一式	<u>20,900</u>	
		肩たすき一式	<u>10,500</u>	
	上腕義手用	胸郭用ベルトハーネス一式	<u>20,700</u>	
		肩たすき一式	<u>10,500</u>	
		8字ハーネス一式	<u>9,550</u>	
	前腕義手用	胸郭用ベルトハーネス一式	17,600	
		8字ハーネス一式	<u>7,700</u>	
9字ハーネス一式		4,950		
上腕カフ(三頭筋パッド)		5,000		
義 足 懸 垂 用 部 品	股義足用	懸垂帯一式	<u>14,900</u>	
	大腿義足用	シレジアバンド一式	<u>7,200</u>	
		肩吊帯	<u>6,250</u>	
		腰バンド	<u>8,600</u>	
		横吊帯	1,600	
		義足用股吊帯	2,050	価格は1本当たりのものであること。
	下腿義足用	腰バンド	8,600	
		横吊帯	<u>2,250</u>	
		大腿もも締め一式	<u>11,300</u>	
		P T B 膝カフ一式	<u>8,600</u>	

(注)

- 1 肘義手用は、上腕義手用に準ずること。
- 2 手義手用及び手部義手用は、前腕義手用に準ずること。
- 3 膝義足用は、大腿義足用に準ずること。
- 4 サイム義足用は、下腿義足用に準ずること。
- 5 下腿義足差込式用軽便式の懸垂用膝カフは、P T B 膝カフに準ずること。

(オ) 外装

名 称	価 格 円	備 考
肩 義 手 用	10,600	
上 腕 義 手 用	8,400	
前 腕 義 手 用	7,500	
股 義 足 用	26,700	
大 腿 義 足 用	21,400	
膝 義 足 用	19,100	
下 腿 義 足 用	16,800	
(注) リアルソックスを必要とする場合は、オの完成用部品の価格を1,050円増しとすること。		

オ 完成用部品

義手用部品及び義足用部品の名称、使用部品、価格等については、別に定めるところによること。

カ 耐用年数

材 料 ・ 部 品 名	耐用年数 年	備 考
パイプ (チューブアダプター)	5	耐用年数以内の故障に際しては、原則として小部品の取替えにより修理又は調整を行うこと。
継 手 類	3	
リストメタル	3	
手 部	3	
ターンテーブル	3	
手 袋	1. 5	
足 部	1. 5	
フォームカバー (義手用)	1. 5	
フォームカバー (義足用)	0. 5	
その他小部品 (消耗品)	1	

キ 使用年数

年 齢	使用年数	備 考
0～14歳	1 年	「フォームカバー (義足用)」については、左記使用年数にかかわらず6月とすること。
15～17歳	1年6月	<p>1 完成用部品を構成する「小部品 (消耗品)」については、左記使用年数にかかわらず1年とすること。</p> <p>2 「フォームカバー (義足用)」については、左記使用年数にかかわらず6月とすること。</p>

備 考

- 1 本表の価格は、医師の採型技術料を含まないものであること。
- 2 耐用年数は、通常の装用状態において、当該材料・部品が修理不能となるまでの予想年数を示したものであること。

(3) 装 具

区 分	名 称	基 本 構 造	使用材料・部 品及び工作法	価 格	備 考
下肢装具	股 装 具	<p>骨盤から大腿下部に及ぶもの</p> <p>A 金属枠 骨盤部が金属枠で作られているもの。S型支柱のものも含まれること。</p> <p>B 硬 性 骨盤及び大腿部が陽性モデルによってモールドされたもの。補強用の支柱付きのものを基本とすること。</p> <p>1 不燃性セルロイド 2 皮 革 3 プラスチック</p> <p>C 軟 性 布を主材料としたもの</p>	<p>アの基本工作法により、エ及びオによりそれぞれ必要な材料・部品を選択し、組み合わせて製作すること。</p>	<p>イの採型区分によるウの基本価格にエ及びオのそれぞれ使用する材料・部品の価格を合算した額とすること。</p>	
	先 天 性 股 脱 装 具	<p>先天性股脱に用いられる装具で、両側下肢に及ぶものを基本とすること。</p> <p>A リーメンビューゲル型（パブリック帯） 布又は皮革の帯によって股関節を屈曲位に保つもの</p> <p>B ホンローゼン型 三本の金属板の組合せで、股関節を開排位に保つもの</p> <p>C バチュラー型 両大腿及び下腿コルセットを金属支柱でつなぎ、股関節を外転、内旋、屈曲位に保つもの</p> <p>D ローレンツ型 股関節を開排位に固定保持するもの</p> <p>E ランゲ型 股関節を外転位、軽度屈曲位、強い内旋位に固定保持するもの</p>			障害児に限る。
	内反足装具	<p>A 短下肢装具型 下腿の上部から足底に及ぶもの。詳細は、短下肢装具に準ずること。</p> <p>B 靴型装具型 詳細は、靴型装具に準ずること。</p>			障害児に限る。 外反足装具もこれに準ずること。

	<p>C デニスブラウン副子 両側の足部を横棒によって結ぶもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 足底板型 アルミニウムにフェルトの内張りをしたものを基本とすること。 2 足部おおい型 3 靴型装具型 	
長下肢装具	<p>大腿上部より足底に及ぶもの</p> <p>A 両側支柱 下肢の長軸に沿って内外の両側に金属の支柱をもち、大腿部と下腿部においてそれぞれ両支柱を結ぶ一つ以上の金属の半月をもつもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高力アルミニウム合金 2 鋼 <p>B 片側支柱 下肢の長軸に沿って内外のどちらか一方に金属の支柱をもつもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高力アルミニウム合金 2 鋼 <p>C 硬 性 陽性モデルを用いてモールドされたもの。内外の両側に金属の支柱と両支柱を結ぶ金属の半月で補強されているものを基本とすること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 不燃性セルロイド 2 皮 革 3 プラスチック <p>D X脚又はO脚(障害児に限る。)</p>	
膝 装 具	<p>大腿から下腿に及ぶもの</p> <p>A 両側支柱 内外側に金属支柱をもち、両支柱を結ぶ金属の半月を大腿部及び下腿部でそれぞれ一つ以上もつもの</p> <p>B 硬 性 陽性モデルを用いてモールドされたもの。金属支柱付きのもの及び平ばねの入ったものも含まれること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 不燃性セルロイド 	

	<p>2 皮 革</p> <p>3 プラスチック</p> <p>C スウェーデン式</p> <p>D 軟 性</p> <p>布を主材料としたもの</p>	
短下肢装具	<p>下肢上部より足底に及ぶもの</p> <p>A 両側支柱</p> <p>下腿の長軸に沿って内外の両側に金属の支柱をもち、両支柱を結ぶ一つ以上の金属の半月をもつもの</p> <p>1 高力アルミニウム合金</p> <p>2 鋼</p> <p>B 片側支柱</p> <p>下肢の長軸に沿って内外のどちらか一方に金属の支柱をもつもの</p> <p>1 高力アルミニウム合金</p> <p>2 鋼</p> <p>C S型支柱</p> <p>下腿の周囲をらせん状に走る金属の支柱をもつもの</p> <p>1 高力アルミニウム合金</p> <p>2 鋼</p> <p>D 鋼線支柱</p> <p>下腿の長軸に沿って走る鋼線の支柱と両支柱を結ぶ金属の半月をもつもの。鋼線の支柱は、足関節の高さ付近で円形に曲げられて、コイルばねの機能をもたせてあること。</p> <p>E 板ばね</p> <p>下腿の後方に長軸に沿って走る金属又はプラスチックのばねをもつもの。ばねの上端は、金属又はプラスチックの半月につながるものとする</p> <p>こと。</p> <p>F 硬 性</p> <p>陽性モデルを用いてモールドされたもの（材料は不燃性セルロイド、プラスチック、皮革等）</p> <p>1 支柱付き</p> <p>金属の支柱と半月によって補強されたもの</p>	<p>顎上部型プラスチック短下肢装具（NYU型）及びS型プラスチック短下肢装具は、硬性短下肢装具（支柱付き）に含まれること。</p>

		<p>2 支柱なし 金属支柱のないもの</p> <p>G 軟 性 ゴムひもを用いて足関節を背屈位に保つもの</p>	
	ツイスター	<p>骨盤帯と足部を布ひも、ゴムひも又は鋼製ケーブルによって結び、下肢の内外旋を制御するもの</p> <p>A 軟 性 布ひも又はゴムひもを用いたもの</p> <p>B 鋼製ケーブル 鋼製ケーブルを用いたもの</p>	
	足底装具	<p>足部に対する装具であつて、靴型装具以外のもの</p> <p>A アーチサポート（ふまず支え） 足の縦アーチを支えるもので、中足支えを含むものを基本とすること。</p> <p>1 陽性モデルを用いてモールドされたもの</p> <p>2 採寸によって製作されたもの</p> <p>B メタルザルサポート（中足支え） 足の中足アーチを支えるもの</p> <p>C 補 高</p> <p>1 2 cm未満</p> <p>2 2 cm以上</p> <p>D 内側及び外側楔</p>	<p>踵骨棘用装具は、補高に含まれること。</p> <p>スピッツイ及びトムゼンライン（ふまず支え）は、A-2に含まれること。</p> <p>ランゲ（ふまず支え）は、A-2に含まれること。</p>
靴型装具		<p>医師の処方のもとに治療に用いられる靴であつて、ふまず鋼の入っているものを基本とすること。</p> <p>皮革又は布を主材料としたもの</p> <p>A 長 靴 下腿の上部に及ぶもの</p> <p>B 半長靴（編上靴） 側革が果部より高いもの</p> <p>C チャッカ靴 側革が果部に及ぶもの</p> <p>D 短 靴 側革が果部より低いもの</p>	<p>靴型装具の要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整形靴（陽性モデルから作成した特別製の木型を用いるもの） ・矯正靴（内・外反足の矯正用）
体幹装具	頸椎装具	<p>肩甲骨から頭蓋に及ぶものを基本とすること。</p>	<p>高さ調整は、カラーの場合には適用しな</p>

	<p>A 金属枠</p> <p>B 硬 性（スポンジラバーを含む。） 陽性モデルを用いてモールドされたもの</p> <p>1 不燃性セルロイド</p> <p>2 皮 革</p> <p>3 プラスチック</p> <p>C カラー</p> <p>1 あご受けのあるもの</p> <p>2 あご受けのないもの</p> <p>D 斜頸矯正用枕(障害児に限る。)</p>		いこと。
胸 椎 装 具	<p>骨盤から胸背部に及ぶもの</p> <p>A 金属枠</p> <p>B 硬 性（頸椎装具に準ずる。）</p> <p>C 軟 性</p>		
腰 椎 装 具	<p>骨盤から腰部に及ぶもの</p> <p>A 金属枠</p> <p>B 硬 性（頸椎装具に準ずる。）</p> <p>C 軟 性</p>		<p>ナイトブレイスは、金属枠腰椎装具に含まれること。</p> <p>ウイリアムブレイス、前屈ブレイスは、金属枠腰椎装具・腰部継手付に含まれること。</p>
仙 腸 装 具	<p>骨盤を含むもの</p> <p>A 金属枠</p> <p>B 硬 性（頸椎装具に準ずる。）</p> <p>C 軟 性</p> <p>布を主材料にし、板ばねで補強したもの</p> <p>D 骨盤帯</p> <p>骨盤を帯状に一周するもの</p> <p>1 芯のあるもの</p> <p>2 芯のないもの</p>		<p>オスグッドブレイス、コールドウェイトブレスは、金属枠仙腸装具に含まれること。</p>
側 彎 矯 正 装 具	<p>側彎症の矯正に用いるもの。原則として24時間の連続装着しうるものであること。</p> <p>A ミルウォーキーブレイス</p> <p>骨盤から頭部に及ぶもの</p> <p>B 頭部に及ばないもの</p> <p>1 金属枠</p>		

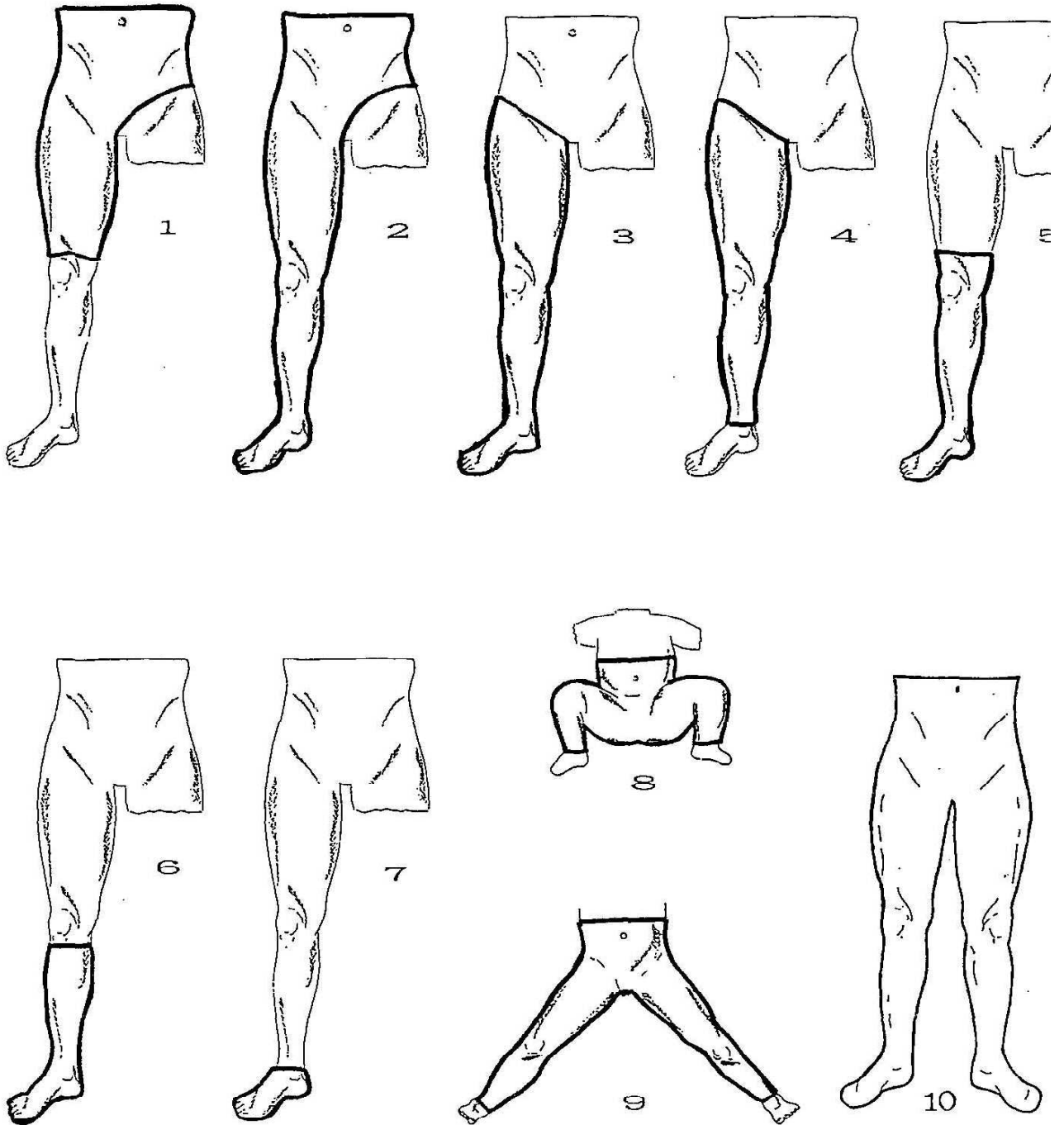
		<p>2 硬 性 (仙腸装具に準ずる。)</p> <p>3 軟 性 (帯状のものを含む。)</p>	
上肢装具	肩 装 具	<p>肩関節を外点位に保持するもので、骨盤から前腕に及ぶものを基本とすること。</p> <p>A 金属枠 体幹の部分が金属枠のもの</p> <p>B 硬 性 陽性モデルによつてモールドされたもの。金属支柱により補強されたものも含まれること。</p> <p>1 不燃性セルロイド</p> <p>2 皮 革</p> <p>3 プラスチック</p> <p>C 分娩麻痺用(障害児に限る。)</p>	
	肘 装 具	<p>上腕から前腕に及ぶもの</p> <p>A 両側支柱 両側に金属支柱をもち、金属の半月をもつもの</p> <p>B 硬 性 陽性モデルを用いてモールドされたもの。金属支柱により補強されたものも含まれること。</p> <p>1 不燃性セルロイド</p> <p>2 皮 革</p> <p>3 プラスチック</p> <p>C 軟 性</p>	
	手背屈装具	<p>前腕から手部に及ぶもので、手関節を背屈位に保持するもの</p> <p>A パネル型 前腕部と手部を板ばねによつて結ぶもの</p> <p>B トーマス型 ゴムによつて手関節を背屈位に、母指を外転位に保つもの</p> <p>C オッペンハイマー型 鋼線を主材料として、手関節背屈、MP伸展、母指外転位をとらせるもの</p> <p>D 硬 性</p> <p>1 不燃性セルロイド</p>	

	<p>2 皮 革</p> <p>3 プラスチック</p>		
長対立装具	前腕から手部に及ぶもので、手関節を背屈位に保持し、母指を対立位に保つもの。高力アルミニウム合金等にフェルトの内張りした構造を基本とすること。		
短対立装具	母指を対立位に保つもの。高力アルミニウム合金等にフェルトの内張りした構造を基本とすること。		
把持装具	<p>前腕から手部に及ぶもので、母指と示中指間におけるつまみを可能にするもの。通常は高力アルミニウム合金等にフェルトの内張りしたものを基本とするが、プラスチックを主材料としたものも含まれること。</p> <p>A 手関節駆動式 手関節の運動によってつまみを可能にするもの</p> <p>B ハーネス駆動式 ハーネスを力源とするもの</p>		
MP屈曲装具 (ナックルベンダー) 及び MP伸展装具 (逆ナックルベンダー)	<p>手部から示指より小指の基節に及ぶもので、MP関節を屈曲又は伸展させるもの</p> <p>A バネル型 ゴムを用いるもの</p> <p>B プラスチック</p> <p>C 軟 性</p>		
指装具(指用ナックルベンダー及び指用逆ナックルベンダー)	P I P 及び D I P 関節を伸展位又は屈曲位、あるいは内外反位に保持するもの		
B . F . O (食事動作補助器)	前腕を平衡をとった状態で支え、ボールベアリングを利用してわずかな力で運動を可能にしたもの		付属品として車いすを加えることができること。

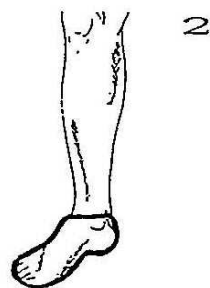
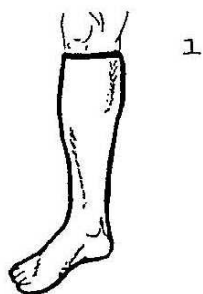
ア 基本工法

工 程	作 業 の 内 容
(ア) 患肢及び患部の観察	患部の表面の状況、関節の運動機能(屈伸、内転、外転等)の状況並びに肢位の観察及び特長の把握
(イ) 採寸及び投影図の作成	情報カードの記録、製作に必要な寸法及び角度の測定並びに記録並びに投影図の作成
(ウ) 採 型	ギプス包帯法による陰性モデルの採型
(エ) 陽性モデルの製作	陰性モデルへのギプスの注型、陽性モデルの修正、表面の仕上げ及び乾燥
(オ) 組立て	陽性モデルにデザインの記入(アライメント) フレーム: 曲げ加工、組立て及び調整 モールド: プラスチック板切断、加熱成形加工、トリミング及び調整 筋金、締め革、足部覆い、足底板、ネックリング、パッド、ベルト等の仮止め及び各部の結合
(カ) 仮合わせ(中間適合検査)	筋金、締め革、足部覆い、足底板、ネックリング、パッド、ベルト等の調整、試し使用及び仕上げ
(キ) 仕上げ	筋金、締め革、足部覆い、足底板、ネックリング、パッド、ベルト等の付属品の取付け及び仕上げ
(ク) 適合検査	装具の適合の最終検査並びに装着及び使用による機能の最終検査

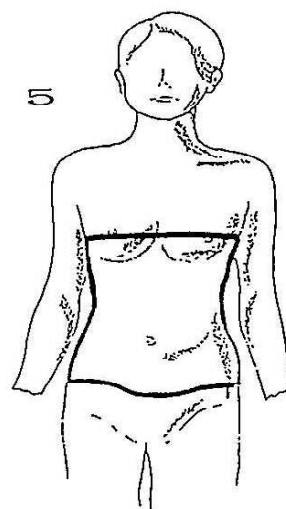
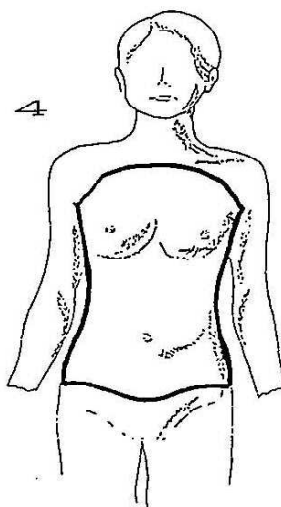
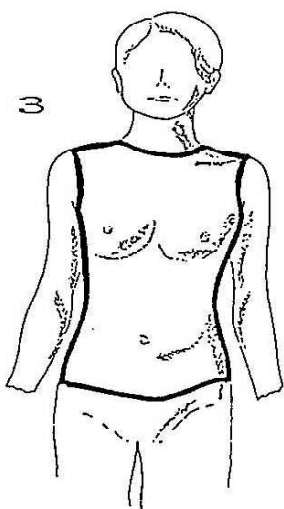
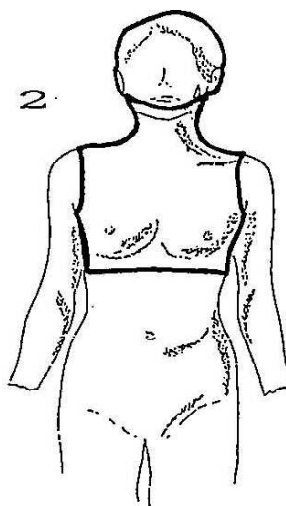
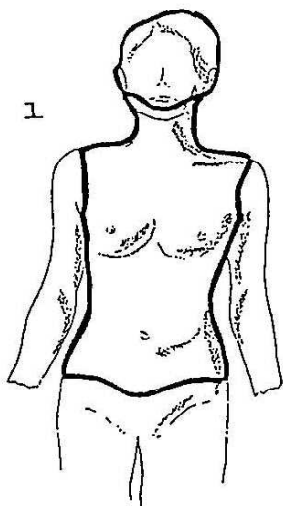
イ 採型区分
A 下肢装具



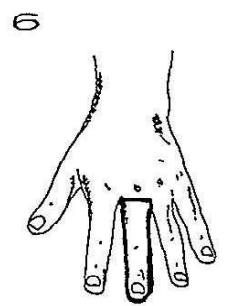
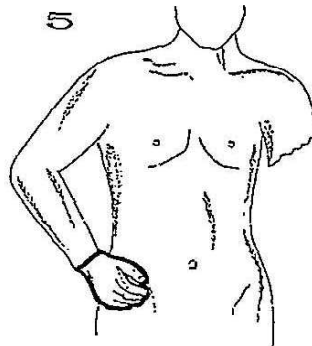
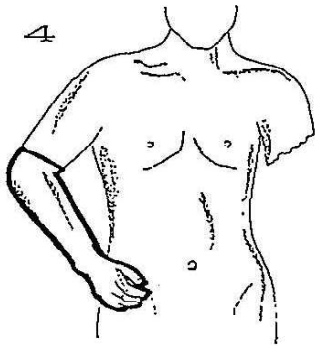
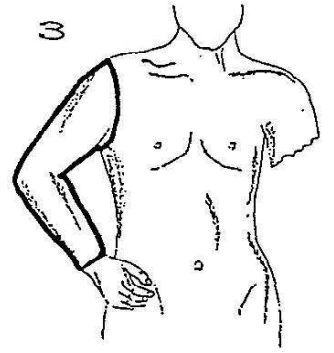
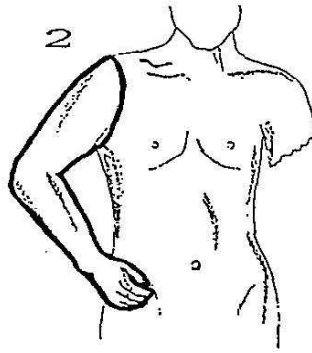
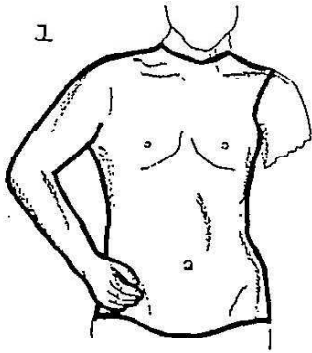
B 靴型装具



C 体幹装具



D 上肢装具



ウ 基本価格

名 称	採 型 区 分	価 格 円		備 考
		採 型	採 寸	
下肢装具用	A - 1	<u>25,200</u>	7,700	
	A - 2	<u>32,000</u>	<u>8,450</u>	
	A - 3	<u>21,800</u>	<u>7,850</u>	
	A - 4	<u>18,400</u>	7,350	
	A - 5	<u>16,800</u>	<u>7,150</u>	
	A - 6	<u>15,300</u>	7,000	
	A - 7	<u>11,100</u>	6,000	
	A - 8	<u>21,300</u>	7,600	
	A - 9	<u>22,900</u>	7,700	
	A - 10	<u>48,500</u>	14,100	
靴型装具用	B - 1	<u>15,300</u>	7,000	
	B - 2	<u>11,100</u>	6,000	
体幹装具用	C - 1	<u>29,600</u>	8,050	
	C - 2	<u>23,100</u>	7,450	
	C - 3			
	(金属枠、硬性)	<u>22,600</u>	7,000	
	(軟性)	7,000	7,000	
	C - 4			
	(金属枠、硬性)	<u>19,300</u>	6,850	
	(軟性)	6,900	6,850	
C - 5				
(金属枠、硬性)	<u>17,000</u>	6,650		
(軟性、骨盤帯)	6,650	6,650		
上肢装具用	D - 1	<u>30,800</u>	8,200	
	D - 2	<u>16,700</u>	<u>7,150</u>	
	D - 3	<u>15,200</u>	6,900	
	D - 4	<u>13,500</u>	6,700	
	D - 5	10,800	6,100	
	D - 6	<u>8,150</u>	4,350	

(注)

- 1 2種類以上の装具を組み合わせた装具の場合は、個々の価格のうち、最も高い価格とすること。
- 2 補高用足部（脚長差を補正するために使用する義足用足部をいう。以下同じ。）を使用する場合は、32,200円増しとすること。
- 3 補高用足部は、健肢とに大幅な脚長差が生じる場合にのみ加えることができること。
- 4 補高用足部の場合は、エの(イ)のbの付属品等の加算要素として補高の価格を加算することができないこと。

エ 製作要素価格

(ア) 下肢装具

a 継手

名 称	種 類	価 格 円	備 考
股 継 手	固 定	5,950	
	遊 動	7,050	
膝 継 手 (片 側)	固 定	5,800	
	遊 動	6,300	
	プラスチック継手	<u>13,400</u>	
足 継 手 (片 側)	固 定	4,850	
	遊 動	5,750	
	プラスチック継手	<u>10,000</u>	
(注)			
1 固定継手は、継手のない支柱を使用する場合にのみ用いることができること。			
2 遊動継手は、継手のある支柱を使用する場合にのみ用いることができ、固定・遊動切替式のものも含まれること。			
3 鋼線支柱は、遊動の価格とし、片側を1単位とすること。			
4 短下肢装具用の板バネ支柱は、足継手の遊動の価格とすること。			
5 可撓性のプラスチック継手（継手部分として独立した形状を有するものに限る。）の場合は、プラスチック継手の価格とすること。ただし、ヒンジ継手の場合は、片側を1単位とすること。			

b 支持部

名 称	種 類	価 格 円	備 考
大腿支持部	A 半月	<u>4,350</u>	
	B 皮革等		
	1 カフバンド	<u>7,550</u>	
	2 大腿コルセット	<u>15,000</u>	
	C モールド		
	1 熱硬化性樹脂	<u>24,600</u>	
	2 熱可塑性樹脂	<u>10,100</u>	
下腿支持部	A 半月	<u>4,200</u>	
	B 皮革等		
	1 カフバンド	<u>6,450</u>	
	2 下腿コルセット	<u>11,700</u>	
	C モールド		
	1 熱硬化性樹脂	<u>22,900</u>	
	2 熱可塑性樹脂	<u>8,600</u>	
足 部	A あぶみ	2,350	歩行用あぶみは、あぶみに準ずること。
	B 足部		足底装具は、Bの足部に準ずること。
	1 皮革等		
	大	<u>13,000</u>	
	小	<u>6,800</u>	
	2 モールド（熱硬化性樹脂）	<u>13,500</u>	
	3 モールド（熱可塑性樹脂）	<u>7,450</u>	
C 標準靴	800	標準靴は、完成用部品を加えることができること。	

(注)

- 1 半月及び皮革の価格は、1か所当たりのものであること。
- 2 補高、ヒールの補正及び足底の補正を必要とする場合は、(イ)の靴型装具に準ずること。
- 3 大腿支持部の坐骨支持式は、20,200円増しとすること。
- 4 下腿支持部のPTB支持式、PTS支持式及びKBM支持式は、13,900円増しとすること。
- 5 足板の補強を行った場合は、9,200円増しとすること。

c その他の加算要素

名 称	種 類	価 格 円	備 考
膝サポーター	軟 性（支柱付き）	<u>15,400</u>	ファンロックは、ダイヤルロックに含まれること。 バネ式又はゴム式を含むものであること。
	軟 性（支柱なし）	<u>7,050</u>	
キャリパー		<u>17,800</u>	
ツイスター	軟 性	<u>5,100</u>	
	鋼製ケーブル	3,100	
デニスブラウン		2,450	
膝当て		<u>4,200</u>	
T・Yストラップ		<u>4,850</u>	
スタビライザー		<u>16,500</u>	
ターンバックル		<u>5,450</u>	
ダイヤルロック		<u>7,900</u>	
伸展・屈曲補助装置		<u>4,300</u>	
補高用足部		<u>46,600</u>	
足底裏革（すべり止め用）		<u>1,800</u>	
高さ調整		3,450	
内張り	大腿部	1,950	
	下腿部	<u>1,600</u>	
	足 部	1,150	

(注)

- 1 キャリパー及びツイスターを使用する場合は、オの完成用部品を加えることができないこと。
- 2 ヒールの補正及び足底の補正を必要とする場合は、(イ)の靴型装具に準ずること。
- 3 骨盤帯を使用する場合は、(ウ)の体幹装具に準ずること。
- 4 懸垂帯を使用する場合は、(1)のエの(エ)の義足懸垂用部品に準ずること。
- 5 補高用足部とは、健肢とに大幅な脚長差が生じる場合にのみ加えることができること。
- 6 補高用足部は、完成用部品を加算することができること。
- 7 高さ調整の価格は、1か所当たりのものであること。
- 8 内張りは、モールドの場合に限ること。
- 9 デニスブラウンは、6歳未満を対象とするものに限ること。

d 先天性股脱装具用の加算要素

名 称	種 類	価 格 円	備 考
リーメンビューゲル		<u>9,600</u>	
ホンローゼン型		<u>13,600</u>	
パチェラー型		<u>28,500</u>	
ローレンツ型	A モールド	<u>15,400</u>	
	B モールドフレーム		
	1 固定式	<u>23,400</u>	
	2 調節式	<u>25,100</u>	
ランゲ型		<u>34,700</u>	
(注)			
継手を使用した場合は、aの継手及びオの完成用部品の価格を加算できること。			

(イ) 靴型装具

a 製作要素

(a) 患 足

名 称	種 類	価 格 円	備 考
短 靴	整 形 靴	<u>39,700</u>	
	特 殊 靴	<u>49,200</u>	
チャッカ靴	整 形 靴	<u>41,000</u>	
	特 殊 靴	<u>51,200</u>	
半 長 靴	整 形 靴	<u>42,200</u>	
	特 殊 靴	<u>53,100</u>	
長 靴	整 形 靴	<u>44,900</u>	
	特 殊 靴	<u>58,600</u>	

(注)

- 1 靴型装具は、右又は左の一侧を1単位とすること。
- 2 整形靴は、標準木型に皮革、フェルト等を張って、補正して作られるものとする。
- 3 特殊靴は、陽性モデルから作成した特殊木型を用いて作られるものとする。
- 4 グッドイヤー式及びマッケイ式の価格は、2割増しとすること。
- 5 靴型装具に支柱を必要とする場合は、(ア)の下肢装具の製作要素とオの完成用部品を加えることができる。

(b) 健 足

名 称	価 格 円	備 考
短 靴	<u>24,500</u>	
チャッカ靴	<u>25,500</u>	
半 長 靴	<u>26,400</u>	
長 靴	<u>28,200</u>	

(注)

- 1 右又は左の一侧が健足である場合に加えることができる。
- 2 オの完成用部品を加えることができない。
- 3 グッドイヤー式及びマッケイ式の価格は、2割増しとすること。

b 付属品等の加算要素

名 称	種 類	価 格 円	備 考
月型の延長		<u>4,050</u>	
スチールバネ入り		<u>5,100</u>	足底より近位へ延長する場合に限ること。
トウボックス補強		<u>2,500</u>	
鉛板の挿入		<u>2,600</u>	
足背バンド		<u>2,100</u>	
マジックバンド（裏付き）		1,450	3個を超える場合の超える分1個当たりとすること。
補高	敷き革式	<u>7,200</u>	補高が2cmを超える場合は、超える部分につき2cm単位で1,550円を加算すること。
	靴の補高	3,350	補高が2cmを超える場合は、超える部分につき2cm単位で1,000円を加算すること。
ヒールの補正	トルクヒール	<u>5,700</u>	
	ウェッジ・ヒール	3,350	
	カットオフ・ヒール		
	キール・ヒール		
	サッチ・ヒール		
	トーマス・ヒール		
	逆トーマス・ヒール		
	フレア・ヒール		
階段状ヒール			
足底の補正	内側ソール・ウェッジ 外側ソール・ウェッジ	4,350	
	デンバー・バー トーマス・バー メイトー・半月バー メタルザル・バー ハウザー・バー ロッカー・バー 蝶型踏み返し	3,350	

(ウ) 体幹装具

a 支持部

名 称	種 類	価 格 円	備 考
頸椎支持部	A モールド（熱可塑性樹脂）		モールドのサンドイッチ構造は、17,700円増しと すること。
	1 支柱付き	<u>38,100</u>	
	2 支柱なし	<u>29,400</u>	
	B フレーム	<u>28,400</u>	
	C カラー		
	1 あご受けあり	<u>13,700</u>	
2 あご受けなし	<u>11,000</u>		
胸椎支持部	A モールド（熱可塑性樹脂）		モールドのサンドイッチ構造は、14,400円増しと すること。
	1 支柱付き	<u>38,400</u>	
	2 支柱なし	<u>28,000</u>	
	B フレーム	<u>39,900</u>	
C 軟 性	<u>23,400</u>		
腰椎支持部	A モールド（熱可塑性樹脂）		モールドのサンドイッチ構造は、10,800円増しと すること。
	1 支柱付き	<u>25,700</u>	
	2 支柱なし	<u>19,100</u>	
	B フレーム	<u>32,200</u>	
C 軟 性	<u>18,300</u>		
仙腸支持部	A モールド（熱可塑性樹脂）		モールドのサンドイッチ構造は、9,350円増しと すること。
	1 支柱付き	<u>20,700</u>	
	2 支柱なし	<u>15,200</u>	
	B フレーム	<u>28,100</u>	
	C 軟 性	<u>16,400</u>	
	D 骨盤帯		
	1 芯のあるもの	<u>15,800</u>	
	2 芯のないもの	<u>10,400</u>	
骨盤支持部	A 皮 革（補強材を含む。）	<u>41,300</u>	側彎矯正装具の場合に限ること。
	B モールド（熱可塑性樹脂） ペルビックガードル	<u>29,600</u>	モールドのサンドイッチ構造は、20,500円増しと すること。

b その他の加算要素

名 称	種 類	価 格 円	備 考
体幹装具付属品	高さ調整	3,450	
	ターンバックル式	5,400	
	腰部継手	5,900	
	バタフライ	<u>9,300</u>	
	肩バンド	<u>2,950</u>	
	会陰ひも	2,150	
	腹圧強化バンド	<u>2,950</u>	
側彎矯正装具付属品	胸椎パッド	<u>5,300</u>	
	腰椎パッド	<u>4,800</u>	
	ショルダーリング	<u>14,800</u>	
	腋窩パッド	<u>3,850</u>	
	アウトリガー	<u>2,900</u>	
	前方支柱	<u>11,700</u>	
	後方支柱	<u>13,200</u>	
	側方支柱	<u>5,250</u>	
	ネックリング	2,150	
	胸郭バンド（プラスチック製）	<u>17,100</u>	
内 張 り	頸椎支持部	<u>3,200</u>	
	胸椎支持部	<u>3,900</u>	
	腰椎支持部	<u>3,550</u>	
	仙腸支持部	2,100	
(注)			
1 高さ調整の価格は、1か所当たりのものであり、頸椎装具についてのみ加算することができること。			
2 バタフライについては、モールド又はフレームの場合にのみ加えることができること。			

(エ) 上肢装具

a 継手

名 称	種 類	価 格 円	備 考
肩 継 手	A 固 定 (片側)	<u>5,850</u>	
	B 遊 動 (片側)	<u>9,100</u>	
	C 肩回旋装置	<u>20,600</u>	
肘 継 手 (片 側)	A 固 定	<u>4,150</u>	
	B 遊 動	4,200	
	C プラスチック継手	<u>10,800</u>	
手 継 手 (片 側)	A 固 定	3,400	
	B 遊 動	<u>6,850</u>	
	C プラスチック継手	<u>9,550</u>	
	D 鋼線支柱	6,450	
M P 継 手	A 固 定	<u>4,200</u>	
	B 遊 動	4,650	
I P 継 手	A 固 定		
	1 金属 (アルミニウム)	<u>2,600</u>	
	2 モールド (熱可塑性樹脂)	2,050	
	B 遊 動	3,500	
	C 鋼線支柱	<u>1,850</u>	
(注)			
1 固定継手は、継手のない支柱を使用する場合にのみ用いることができること。			
2 遊動継手は、継手のある支柱を使用する場合にのみ用いることができ、固定・遊動切替式のものも含まれること。			
3 プラスチック継手は、オの完成用部品を加えることができないこと。			

b 支持部

名 称	種 類	価 格 円	備 考
胸 郭 支 持 部 (半 身)	A モールド (熱可塑性樹脂)	<u>14,000</u>	
	B フレーム	<u>9,400</u>	
骨 盤 支 持 部 (半 身)	A モールド (熱可塑性樹脂)	<u>15,400</u>	
	B フレーム	<u>15,200</u>	
上 腕 支 持 部	A 半月	3,850	
	B 皮革等		
	1 カフバンド	<u>5,450</u>	
	2 上腕コルセット	<u>8,950</u>	
	C モールド (熱可塑性樹脂)	<u>8,400</u>	モールドのサンドイッチ構造は、6,700円増しとすること。
前 腕 支 持 部	A 半月	<u>4,050</u>	
	B 皮革等		
	1 カフバンド	<u>5,550</u>	
	2 前腕コルセット	<u>7,150</u>	
	C モールド (熱可塑性樹脂)	<u>8,050</u>	モールドのサンドイッチ構造は、6,900円増しとすること。
手 部 背 側 パ ッ ド	A モールド	2,400	
	B フレーム	<u>2,300</u>	
手 掌 パ ッ ド	A モールド	<u>3,750</u>	
	B フレーム	<u>4,350</u>	
(注)			
半月及び皮革の価格は、1か所当たりのものであること。			

c その他の加算要素

名 称	種 類	価 格 円	備 考
基節骨パッド	モールド	<u>2,650</u>	価格は、背側若しくは掌側又はその両方を1単位とすること。
	フレーム	<u>3,850</u>	
中・末節骨パッド	モールド	<u>2,250</u>	価格は、背側若しくは掌側又はその両方を1単位とすること。
	フレーム	1,750	
対立バー		<u>5,100</u>	
Cバー		3,900	
アウトリガー		2,500	
伸展・屈曲補助バネ		<u>2,550</u>	価格は、1か所当たりとすること。
肘当て		<u>3,350</u>	
ターンバックル		<u>5,450</u>	
ダイヤルロック		<u>7,900</u>	
内張り	上腕部	1,150	
	前腕部	<u>1,050</u>	
	手 部	<u>950</u>	
(注)			
1 肘伸展・屈曲補助バネ又は肘伸展・屈曲補助ゴムを使用する場合は、(ア)の下肢装具に準ずること。			
2 懸垂帯を使用する場合は、(1)のエの(エ)の義手用ハーネス及び義足懸垂用部品に準ずること。			
3 内張りは、モールドの場合に限ること。			

オ 完成用部品

部品の名称、使用部品、価格等については、別に定めるところによること。

カ 耐用年数

(ア) 装具本体

区 分	名 称	型 式	耐用年数 _年	備 考
下肢装具	股 装 具	金 属 枠	3	耐用年数以内の破損及び故障に際しては、原則として修理又は調整を行うこと。
		硬 性	3	
		軟 性	2	
	長 下 肢 装 具		3	
	膝 装 具	両 側 支 柱	3	
		硬 性	3	
		スウェーデン式	2	
	短 下 肢 装 具	軟 性	2	
		両 側 支 柱	3	
		片 側 支 柱	3	
		S 型 支 柱	3	
		鋼 線 支 柱	3	
		板 ば ね	3	
		硬 性 (支柱あり)	3	
		硬 性 (支柱なし)	1.5	
	ツイスター	軟 性	2	
鋼 索		3		
足 底 装 具		1.5		
靴型装具			1.5	
体幹装具	頸 椎 装 具	金 属 枠	3	
		硬 性	2	
		カ ラ ー	2	
	胸 椎 装 具	金 属 枠	3	
		硬 性	2	
		軟 性	1.5	
	腰 椎 装 具	金 属 枠	3	
		硬 性	2	
		軟 性	1.5	
	仙 腸 装 具	金 属 枠	3	
		硬 性	2	

		軟 性	1.5
		骨 盤 帯	2
	側彎矯正装具	ミルウォーキーブレイス	2
		金 属 棒	2
		硬 性	1
		軟 性	1
上肢装具	肩 装 具		3
	肘 装 具	両側支柱	3
		硬 性	3
		軟 性	2
	手背屈装具		3
	長対立装具		3
	短対立装具		3
	把持装具		3
	MP屈曲装具		3
	MP伸展装具		3
	指 装 具		3
	B. F. O.		3

(イ) 完成用部品

材 料 ・ 部 品 名	耐用年数 年	備 考
継 手 類	1.5	耐用年数以内の故障に際しては、原則として小部品の取替えにより修理又は調整を行うこと。
手 部	1.5	
足 部	1	
その他の小部品（消耗品）	1	

キ 使用年数

年 齢	使用年数	備	考
0 歳 1～2歳 3～5歳 6～14歳	4 月 6 月 10 月 1 年		使用年数は、年齢による児童の特殊性を考慮して定めたものであるが、使用年数以内の故障に際し
15～17歳	1年6月	次については、左記使用年数にかかわらず1年とすること。 1 装具本体のうち「側彎矯正装具」の「硬性」及び「軟性」 2 完成用部品のうち「足部」 3 完成用部品を構成する「小部品（消耗品）」	ては、原則として小部品の取替えにより修理又は調整を行うこと。

備 考

- 1 本表の価格は、医師の採型技術料を含まないものであること。
- 2 耐用年数は、通常の装用状態において、当該材料・部品が修理不能となるまでの予想年数を示したものであること。

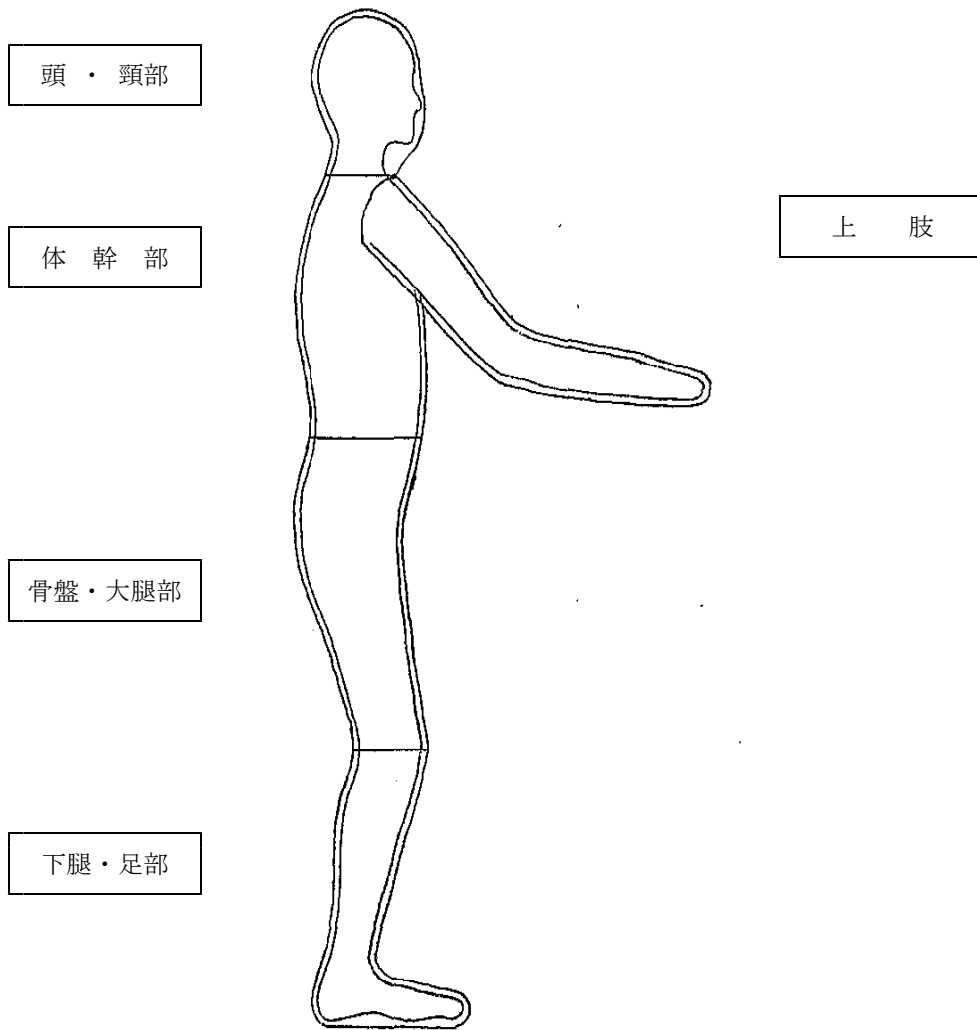
(4) 座位保持装置

種 目	使用要素・部品及び工作法	価 格	耐用年数 年	備 考
座 位 保 持 装 置	<p>座位保持装置として製作されるものについては、機能障害の状況により、座位に類似した姿勢を保持する機能を有する装置を含むものであること。</p> <p>アの基本工作法により、エ及びオよりそれぞれ必要な要素・部品を組み合わせることで製作すること。</p> <p>成長、発達及び姿勢保持能力の状況に適合させること。</p> <p>過度の圧迫等による不快感を生じさせないこと。</p>	<p>イの身体部位区分に従いにより算定した基本価格に、エ及びオのそれぞれ使用する要素・部品の価格を合算した価格とすること。</p>	3	<p>耐用年数以内の破損及び故障に際しては、原則として修理又は調整を行うこと。</p>

ア 基本工作法

工 程	作 業 の 内 容
(ア) 身体状況の観察と評価	身体変形の状況及び痙直、緊張、不随意運動等の観察並びにこれらの特徴の把握並びに姿勢の決定及び使用目的の確認
(イ) 採 寸	製作に必要な寸法及び角度の測定並びに情報カードへの記録
(ウ) 採 型	採型器による陽性モデル又はギプス包帯法による陰性モデルの採型
(エ) 設計図の作成	製作に必要な設計図の作成
(オ) 陽性モデルの製作・修正	陰性モデルへのギプスの注型並びに支持部の製作に必要な陽性モデルの製作、修正、表面の仕上げ
(カ) 加工・組立て	陽性モデル及び設計図に基づく加工並びに組立て
(キ) 仮合わせ（中間適合検査）	身体への適合並びに装置の各機能の検査及び修正
(ク) 仕上げ	各部品の取付け及び仕上げ等
(ケ) 適合検査	最終的な身体への適合及び装置の各機能の検査

イ 身体部位区分



ウ 基本価格

身体部位	価格 円		備考
	採寸	採型	
頭・頸部	2,550	<u>4,550</u>	
上肢(片側)	1,250	<u>3,250</u>	
体幹部	11,000	<u>21,200</u>	
骨盤・大腿部	11,000	<u>21,200</u>	
下腿・足部(片側)	1,500		
(注) 身体部位の区分ごとに定める採寸又は採型の価格を組み合わせる基本価格とすること。			

エ 製作要素価格

(ア) 支持部

部 位	名 称	価 格 円	備 考
頭部	頭部支え	<u>7,250</u>	
上肢	上肢支え (片側)	<u>2,800</u>	
	前腕・手部支え (片側)	<u>3,100</u>	
体幹部	平面形状型	<u>5,900</u>	
	モールド型	<u>40,600</u>	採寸で製作する場合は80%の価格とすること。
	シート張り調節型	<u>12,200</u>	
骨盤・大腿部	平面形状型	<u>5,900</u>	
	モールド型	<u>40,600</u>	採寸で製作する場合は80%の価格とすること。
	シート張り調節型	<u>12,200</u>	
下腿部	下腿支え (片側)	<u>2,250</u>	
足部	足台 (片側)	<u>2,250</u>	
(注)			
フレックス構造を持たせる場合は、1か所につき <u>5,100</u> 円加算できること。			

(イ) 支持部の連結

名 称	種 類	価 格 円	備 考
固 定	頸部	<u>2,750</u>	
	腰部 (片側)	1,950	
	膝部 (片側)		
	足部 (片側)		
遊 動	腰部 (片側)	<u>2,950</u>	
	膝部 (片側)		
	足部 (片側)		
角度調整用部品	機械式	<u>8,500</u>	
	ガス圧式	<u>9,750</u>	
	電動式	<u>68,000</u>	
(注)			
<p>1 固定とは、角度調節機能のない一定の角度で連結する構造をいう。</p> <p>2 遊動とは、多少にかかわらず角度の変更が可能な連結構造であり、角度調整用部品を用いる場合は、使用本数分の価格を加算できること。</p> <p>3 固定又は遊動について、完成用部品の継手を使用する場合は、当該完成用部品の価格とすること。</p> <p>4 1の(1)又は(3)の各オに掲げる殻構造義肢又は装具の完成用部品を使用する場合は、殻構造義肢又は装具の基準に準ずること。</p>			

(ウ) 構造フレーム

使用材料	基本価格 円	備 考
木材・金属	<u>25,900</u>	
(注)		
<p>1 ティルト機構を付加する場合は、<u>4,900</u>円加算し、必要数の角度調整用部品を加算できること。</p> <p>2 昇降機構を付加する場合は、<u>6,700</u>円加算し、必要数の角度調整用部品を加算できること。</p> <p>3 完成用部品の構造フレームを使用する場合は、当該完成用部品の価格を基本価格とすること。</p> <p>4 車椅子及び電動車椅子としての機能を付加する場合は、1の(5)に定める車椅子及び電動車椅子の価格を基本価格とすること。ただし、座位保持装置として製作する部分と重複することとなる部分については、2の(5)に定める車椅子及び電動車椅子の各部位の交換価格の95%に相当する価格とみなし、これを控除すること。また、リクライニング、ティルト、リクライニング・ティルトに限り車椅子及び電動車椅子側の機構を優先することとし、座位保持装置側の機構の製作要素加算は行わないこと。</p>		

(エ) 付属品

名 称	種 類	価 格 円	備 考
カットアウトテーブル		<u>11,600</u>	表面クッション張りは <u>3,650</u> 円加算できること。
上肢保持部品	アームレスト (片側)	<u>3,600</u>	
	肘パッド (片側)	2,150	
	縦型グリップ (片側) 横型グリップ (片側)	<u>2,600</u>	
体幹保持部品	肩パッド (片側)	<u>3,450</u>	
	胸パッド	<u>3,900</u>	
	胸受けロール	<u>5,400</u>	
	体幹パッド (片側)	<u>3,000</u>	
	腰部パッド	<u>3,450</u>	
骨盤保持部品	骨盤パッド (片側)	2,100	
	臀部パッド	<u>3,500</u>	
下肢保持部品	内転防止パッド	<u>3,750</u>	
	外転防止パッド (片側)	2,100	
	膝パッド (片側) 下腿保持パッド (片側)	<u>3,250</u>	
	足部保持パッド (片側)	2,450	
ベルト部品	肩ベルト (片側)	1,900	
	腕ベルト (片側) 手首ベルト (片側)	1,600	
	胸ベルト 骨盤ベルト	<u>3,350</u>	
	股ベルト	<u>3,500</u>	
	大腿ベルト (片側) 膝ベルト (片側) 下腿ベルト (片側) 足首ベルト (片側)	1,750	

支持部カバー	頭部	2,250	脱着式は2,600円加算できること。	
	上肢（片側）	1,250		
	体幹部	平面形状型		<u>2,750</u>
		モールド型		<u>8,050</u>
		シート張り調節型		<u>3,200</u>
	骨盤・ 大腿部	平面形状型		<u>2,750</u>
		モールド型		<u>8,050</u>
		シート張り調節型		<u>3,200</u>
	下腿部（片側）	1,250		
足 部（片側）	1,250			
内張り	アームレスト（片側）	1,350		
	テーブル	<u>3,650</u>		
体圧分散補助素材	頭部	<u>3,650</u>		
	上肢（片側）	<u>1,800</u>		
	体幹部	<u>8,350</u>		
	骨盤・大腿部	<u>8,350</u>		
	下腿部（片側） 足部（片側）	<u>1,800</u>		
キャスター		<u>1,450</u>	多機能キャスターは <u>900</u> 円加算できること。	
その他	介助用グリップ（片側）	<u>2,650</u>		
	ストッパー	<u>4,050</u>		
	高さ調整用台座	<u>15,800</u>		
(注)				
1 各種類1個（本）当たりの額とすること。				
2 取付けに当たってマジックバンドを使用する場合は、その価格を含むものとする。				

(オ) 調節機構

名 称	種 類	価 格 円	備 考
高 さ 調 節	頭部支持部 体幹支持部 骨盤・大腿支持部	2,550	
	足部支持部（片側） アームレスト（片側）	1,600	
前 後 調 節	頭部支持部 骨盤・大腿支持部	<u>2,650</u>	
	足部支持部（片側）	1,600	
角 度 調 節	頭部支持部	<u>3,050</u>	
	テーブル	<u>6,700</u>	
脱 着 機 構	体幹パッド（片側） 骨盤パッド（片側） 膝パッド（片側） アームレスト（片側）	<u>2,050</u>	
	内転防止パッド	<u>5,700</u>	
開 閉 機 構	アームレスト（片側） 足部支持部（片側）	<u>2,050</u>	
(注)			
1 それぞれを1単位とすること。			
2 脱着・開閉機構で、蝶番のみやマジックバンドなどの簡便な方法によるものは、加算できないこと。			

オ 完成用部品

座位保持装置用部品の名称、使用部品、価格等については、別に定めるところによること。

備 考

- 1 本表の価格は、医師の採型技術料を含まないものであること。
- 2 耐用年数は、通常の使用状態において、当該装置が修理不能となるまでの予想年数を示したものであること。

(5) その他

種 目	名 称	基 本 構 造	付 属 品	価 格 円	耐用 年数 年	備 考
盲 人	普 通 用	主体— <u>繊維複合材料</u> 石突—耐摩耗性合成樹脂 又は高力アルミニウム合金 外装—白色又は黄色の塗装若しくは加工 形状—直式	夜光装置 ベル ゴムグリップ	3,550	2	1 夜光装置 (1) 夜光材付とした場合は410円増しとすること。 (2) 全面夜光材付とした場合は1,200円増しとすること。 (3) フラッシュライト付とした場合は1,650円増しとすること。
		主体—木材 その他は上と同じ。	上と同じ。	1,650		2 ベル付とした場合は1,650円増しとすること。
		主体—軽金属 その他は上と同じ。	上と同じ。	2,200	5	2
安全つえ	携 帯 用	主体— <u>繊維複合材料</u> 石突及び外装—普通用と同じ。 形状—折たたみ式若しくはスライド式。	上と同じ。	4,400	2	3 主体木材でポリカーボネート樹脂被覆付とした場合は1,450円増しとすること。
		主体—木材 その他は上と同じ。	上と同じ。	3,700		4 ゴムグリップ付とした場合は660円増しとす

		主体—軽金属 その他は上と同じ。	上と同じ。	3,550	4	ること。
身体支持併用		主体—軽金属 石突—ゴム又は普通用と同じ。 外装—普通用と同じ。 形状—直式又は折りたたみ式若しくはスライド式。	上と同じ。	3,800	4	
義眼	普通義眼	主材料—プラスチック 又はガラス 既製品		17,000	2	
	特殊義眼	主材料—上と同じ。 特殊加工を施したものの。		60,000		
	コンタクト義眼	主材料—プラスチック		60,000		
矯正眼鏡	レンズ—プラスチック 又はガラス	6D未満		17,600	価格はレンズ2枚1組のものとし、 枠を含むものであること。 乱視を含む場合は片眼又は両眼にかかわらず、4,200円増しとすること。	
		6D以上 10D未満		20,200		
		10D以上 20D未満		24,000		
		20D以上		24,000		
	遮光眼鏡	主材料は上	前掛式			21,500

眼鏡		と同じ。				4
			6 D未満		30,000	
			6 D以上 10 D未満		30,000	
			10 D以上 20 D未満		30,000	
			20 D以上		30,000	
	コンタクト レンズ	主材料—プラスチック			15,400	価格はレンズ1枚 のものであること。
	弱視眼鏡	掛けめがね式			36,700	高倍率（3倍率以上）の 主鏡を必要とする場合は、 21,800円増しとする。
		焦点調整式			17,900	
	高度難聴用 ポケット型	JIS C 5512-2000 による。 90デシベル最大出力音圧 のピーク値の表示値が 140デシベル未満のもの。	電池 イヤモールド		34,200	価格は電池、骨導 レシーバー又はヘッド バンドを含むものである こと。身体の障害の状況 により、イヤモールドを 必要とする場合は、修理 基準
	高度難聴用 耳かけ型	90デシベル最大出力音圧 のピーク値が 125デシベ			43,900	

補聴器		ル以上に及ぶ場合は出力制限装置を付けること。			<p>の表に掲げる交換の額の範囲内で必要な額を加算すること。</p> <p>ダンパー入りフックとした場合は、240円増しとすること。</p> <p>平面レンズを必要とする場合は、修理基準の表に掲げる交換の額の範囲内で必要な額を、また、矯正用レンズ又は遮光矯正用レンズを必要とする場合は、眼鏡の修理基準の表に掲げる交換の額の範囲内で必要な額を加算すること。</p> <p>重度難聴用耳かけ型でFM型受信機、オーディオチューン、FM型用ワイヤレスマイクを必要とする場合は、修理基準の表に掲げる交換の額の範囲内で必要な額を加算すること。</p>
	重度難聴用ポケット型	90デシベル最大出力音圧のピーク値の表示値が140デシベル以上のもの。その他は高度難聴用ポケット型及び高度難聴用耳かけ型に準ずる。	電池 イヤモールド	55,800	
	重度難聴用耳かけ型			67,300	
	耳あな型 (レディメイド)	高度難聴用ポケット型及び高度難聴用耳かけ型に準ずる。ただし、オーダーメイドの出力制限装置は内蔵型を含むこと。	電池 イヤモールド	87,000	
	耳あな型 (オーダーメイド)			電池	
	骨導式ポケット型	IEC Pub118-9 (1985)による。90デシベル最大フォースレベルの表示値が110デシベル以上のもの。	電池 骨導レシーバー ヘッドバンド	70,100	
	骨導式眼鏡型			電池 平面レンズ	

車椅子	普通型	原則として折りたたみ式で大車輪が後方にあるもの。 JIS T 9201-1998 又は JIS T 9201-2006による。	身体の障害の状況により、クッション、その他の付属品を必要とする場合は、修理基準の表に掲げるものを付属品とする。	100,000	6	<p>価格は、オーダーメイドによる製品及びモジュラー方式による製品（モジュールを組み立てることにより製作でき、完成後の微調整機能を有するもの。）に適用するものとし、レディメイドによる製品については、価格欄の額の75%の範囲内の額とすること。</p> <p><small>じょくそう</small>褥瘡のある者、 <small>じょくそう</small>褥瘡の発生の危険性のある者等がクッションを必要とする場合は、修理基準の表に掲げるクッション等の額の範囲内で必要な額を加算すること。</p> <p>6 体幹筋力の低下等により、座位保持装置の完成用部品（支持部（骨盤・大腿部））をクッ</p>
	リクライニング式普通型	バックサポートの角度を変えられることのできるもの。その他は普通型と同じ。	上と同じ。	120,000		
	ティルト式普通型	座席とバックサポートが一定の角度を維持した状態で角度を変えられることのできるもの。その他は普通型と同じ。	上と同じ。	148,000		
	リクライニング・ティルト式普通型	バックサポートの角度を変えられることができ、座席とバックサポートが一定の角度を維持した状態で角度を変えられることができ	上と同じ。	173,000		

	るもの。その他は普通型と同じ。		
手動リフト式普通型	座席の高さを変えることができるもの。その他は普通型と同じ。	上と同じ。	232,000
前方大車輪型	原則として折りたたみ式で前方に大車輪のあるもの。	上と同じ。	100,000
リクライニング式前方大車輪型	バックサポートの角度を変えることができるもの。その他は前方大車輪型と同じ。	上と同じ。	120,000
片手駆動型	原則として折りたたみ式で片側にハンドリムを二重に装着して、片側上肢障害者等が使用できるもの。	上と同じ。	117,000
リクライニング式片手駆動型	バックサポートの角度を変えることができるもの。その他は片手駆動型と同じ。	上と同じ。	133,600
レバー駆動型	レバー1本で駆動操舵ができ、片側上肢障害者等が使用できるもの。	上と同じ。	160,500

ションとして用いる必要がある場合には、別に定めるところによるものを加算すること。身体の障害の状況により、その他の付属品を必要とする場合は、修理基準の表に掲げる交換の額の範囲内で必要な額を加算すること。

手押し型	原則として介助者が押して駆動するもの。(折りたたみ式又は非折りたたみ式) A 大車輪のあるもの B 小車輪だけのもの	上と同じ。	A 82,700 B 81,000		
リクライニング式手押し型	バックサポートの角度を変えられるもの。その他は手押し型Aと同じ。	上と同じ。	114,000		
ティルト式手押し型	座席とバックサポートが一定の角度を維持した状態で角度を変えられるもの。その他は手押し型Aと同じ。	上と同じ。	128,000		
リクライニング・ティルト式手押し型	バックサポートの角度を変えられ、座席とバックサポートが一定の角度を維持した状態で角度を変えられるもの。その他は手押し型Aと同じ。	上と同じ。	153,000		
普通型 (4.5Km/h)	JIS T 9203-1999 又は JIS T 9203-2006による。	外部充電器 バッテリー 身体の障害の状況により、クッション、その他	314,000		じょくそう 褥瘡のある者、 じょくそう 褥瘡の発生の危険性のある者等が クッションを必要

電 動 車 椅 子	普通型 (6Km/h)		の付属品を必要とする場合は、修理基準の表に掲げるものを付属品とする。	329,000	とする場合は、車椅子の修理基準の表に掲げるクッション等及びクッションカバーの交換の額の範囲内で必要な額を加算すること。 6 外部充電器を必要とせず当該機能を内蔵する場合は30,000円を、外部充電器を必要とする場合は修理基準の表に掲げる交換の額の範囲内で必要な額を加算すること。 バッテリーの価格は、修理基準の表に掲げるバッテリー交換（マイコン
	簡易型	車椅子に電動駆動装置や制御装置を取り付けた簡便なもの。 A 切替式 電動力行・手動力行を切り替え可能なもの。 B アシスト式 駆動人力を電動力で補助することが可能なもの。 その他は車椅子の普通型に準ずる。	電動装置以外の車椅子部分は購入基準に掲げる額の範囲内で必要な額を加算すること。 外部充電器 バッテリー 電動装置以外は、車椅子の普通型に準ずる。	A	
				157,500	
				B 212,500	
リクライニング式普通型	バックサポートの角度を変えられるもの。その他は普通型と同じ。	普通型と同じ。	343,500		

	電動リクライニング式普通型	電気でバックサポートの角度を変えることができるもの。その他は普通型と同じ。	上と同じ。	440,000		内蔵型に係るものを含む。)の額の範囲内で必要な額を加算すること。また、ACサーボモーター式を必要とする場合は20,000円増しとすること。身体の障害の状況により、その他の付属品を必要とする場合は、電動車椅子の修理基準の表に掲げる交換の額の範囲内で必要な額を加算すること。
	電動リフト式普通型	電気で座席の高さを変えることができるもの。その他は普通型と同じ。	上と同じ。	701,400		
	電動ティルト式普通型	電気で座席とバックサポートが一定の角度を維持した状態で角度を変えることができるもの。その他は普通型と同じ。	上と同じ	580,000		
	電動リクライニング・ティルト式普通型	電気でバックサポートの角度を変えることができ、座席とバックサポートが一定の角度を維持した状態で角度を変えることができるもの。その他は普通型と同じ。	上と同じ。	982,000		
座位保持椅子		機能障害の状況に適合させること。 主材料—木材 アルミニウム管 スポンジ又はウレタン 人工皮革又は布製のカバー		24,300	3	障害児に限る。机上用の盤を取り付ける場合は5,600円増しとすること。座面に軟性の内張りを付した場合は5,000円増しとすること。

		外 装—ニス塗装				車載用のものは 40,700円増しとす ること。
起 立 保 持 具		機能障害の状況に適合さ せること。 箱形とすること。 主材料—木材 外 装—ニス塗装		27,400	3	障害児に限る。
歩 行 器	六 輪 型	前二輪、中二輪、後二輪 の六輪車とし、前輪を自 在車輪とすること。		63,100	5	サドル・テーブル 付きのもの又は胸 郭支持具若しくは 骨盤支持具付きの ものは61,000円増 しとすること。 後方支持型のもの は21,000円増しと すること。
	四 輪 型 (腰掛つき)	前二輪、後二輪の四輪車 とし、前輪を自在車輪と すること。		39,600		
	四 輪 型 (腰掛なし)	上と同じ。		39,600		
	三 輪 型	前一輪、後二輪の三輪車 とし、前輪を自在車輪と すること。		34,000		
	二 輪 型	前二輪、後固定式の脚を 有すること。		27,000		

	固定型	四脚を有し、使用時に持ち上げて移動させるもの。		22,000		
	交互型	四脚を有し、両二脚を交互に移動させるもの。		30,000		
頭部保持具		座位保持椅子等に装着して用いるもので、頭部を固定する機能を有するもの。		7,100	3	障害児に限る。
排便補助具		普通便所で排便が困難な場合に用い、座位排便が容易となるよう機能障害の状況に適合させること。 主材料—木材 外装—ペンキ塗装		10,000	2	障害児に限る。
	松葉づえ	主体—木材（十分な強度を有するもの） 脇当—スポンジ又はウレタン製の枕 皮革、人工皮革又は布製のカバー 外装—ニス塗装 A 普通型 B 伸縮型	夜光材	A 3,300 B 3,300	2	夜光材付とした場合は、410円（全面夜光材付とした場合1,200円）増しとすること。 価格は1本当たりのものであること。 外装に白色又は黄色ラッカーを使用した場合は260円増しとするこ
		主体—軽金属 脇当—合成軟質樹脂		A 4,000		

歩行補助 つえ		握り部分—合成軟質樹脂 外装—塗装なし A 普通型 B 伸縮型		B 4,500	4	と。
	カナディアン・クラッチ	主体—アルミニウム、 鋼管 上部4段間隔以上、下部 9段間隔以上の調節装置 を付けるものとする。 腕支持器 —アルミニウム鋳物 及びステンレス 鋼板 握り部分 —アルミニウム鋳物 及びゴム 外装—塗装なし	夜光材	8,000	4	
	ロフストラ ンド・クラ ッチ	カナディアン・クラッチ に準ずる。	夜光材	8,000	4	
	多 点 杖	つえの下部に三本以上の 脚を有するもの。 主体—軽金属 外装—塗装なし	夜光材	6,600	4	
	プラットホ ーム杖	カナディアン・クラッチ に準ずる。	夜光材	24,000	4	
重度障害 者用意思 伝達装置	文字等走査 入力方式	意思伝達機能を有するソ フトウェアが組み込まれ た専用機器であること 。文字盤又はシンボル等 の選択による意思の表示 等の機能を有する簡易な	プリンタ 身体障害の状況によ り、その他の付属品を必 要とする場合は、修理基 準の表に掲げるものを付 属品とする。	143,000	5	ひらがな等の文字 綴り選択による文 章の表示や発声、 要求項目やシンボ ル等の選択による 伝言の表示や発声

	もの。			等を行うソフトウェアが組み込まれた専用機器及びプリンタとして構成されたもの。その他、障害に応じた付属品を修理基準の中から加えて加算することができること。
	簡易な環境制御機能が付加されたもの	上と同じ。	191,000	簡易な環境制御機能が付加されたものとは、1つの機器操作に関する要求項目を、インターフェイスを通して機器に送信することで、当該機器を自ら操作できるソフトウェアをハードウェアに組み込んでいるものであること。
	高度な環境制御機能が付加されたもの	遠隔制御装置 その他は上と同じ。	450,000	高度な環境制御機能が付加されたものとは、複数の機器操作に関する要求項目を、インターフェイスを通して機器に送信することで、当該機器を自ら操作すること

		通信機能が付加されたもの	上と同じ。		ができるソフトウェアをハードウェアに組み込んでいるものであること。 通信機能が付加されたものとは、文章表示欄が多く、定型句、各種設定等の機能が豊富な特徴を持ち、生成した伝言を、メール等を用いて、遠隔地の相手に対して伝達することができる専用ソフトウェアをハードウェアに組み込んでいるものであること。
生体現象方式	生体信号の検出装置及び解析装置		プリンタ及び遠隔制御装置を除き上と同じ。	450,000	生体現象方式とは、生体現象（脳波や脳の血液量等）を利用して「はい・いいえ」を判定するものであること。

備 考

- 1 本表の価格は、医師の採型技術料を含まないものであること。
- 2 耐用年数は、通常の装用状態において、当該補装具が修理不能となるまでの予想年数を示したものであること。